

講義コード	U360100101	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I A		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 南1-303.通年 火曜日 2時限 対面授業.通年 木曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文字と発音
第3回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第4回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第5回	Leçon 2 (1): être, avoir、否定文2
第6回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第7回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第8回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第9回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第10回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第11回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第12回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第13回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第14回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第15回	理解度の確認
第16回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第17回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第18回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第19回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第20回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第21回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第22回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第23回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第24回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第25回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第26回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第27回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第28回	補遺: 単純過去、前過去
第29回	補遺: 接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形、自由間接話法
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進度によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法(対面授業の場合)

講義および問題演習

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信 (Zoom) とオンデマンドを併用する

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題をやっておくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは返却し、授業内で解説を行う。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書など、教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

予習・復習を欠かさないこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360100102	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I B		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 南1-304.通年 火曜日 2時限 対面授業.通年 木曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

1年間でフランス語初級文法を一通り学ぶ授業です。

到達目標

第1学期は、まずフランス語特有の文法(特に動詞の活用)と発音に慣れること。
1年間の目標としては、辞書を使いながらフランス語の文章を解読することができるようになること。フランス語の綴りと発音の関係を理解し、初見の文章でも音読できること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション / 文字と発音
第2回	教科書第1課
第3回	教科書第1課の続き
第4回	教科書第2課
第5回	教科書第2課の続き
第6回	教科書第3課
第7回	教科書第3課の続き
第8回	教科書第4課
第9回	教科書第4課の続き
第10回	教科書第5課
第11回	教科書第5課の続き
第12回	教科書第6課
第13回	教科書第6課の続き
第14回	理解度の確認
第15回	まとめ
第16回	教科書第7課
第17回	教科書第7課の続き
第18回	教科書第8課
第19回	教科書第8課の続き
第20回	教科書第9課
第21回	教科書第9課の続き
第22回	教科書第10課
第23回	教科書第10課の続き
第24回	教科書第11課
第25回	教科書第11課の続き
第26回	教科書第12課
第27回	教科書第12課の続き
第28回	補遺
第29回	理解度の確認
第30回	まとめ

授業計画コメント

授業内容・進度については修正・変更を加えていく可能性あり。

授業方法(対面授業の場合)

文法事項などを教員が説明したあと、練習問題を受講者が解く。練習問題のほか、例文なども受講者に音読してもらう。

授業方法(遠隔授業の場合)

ZoomおよびWeb Classを使用し、対面授業と同じ内容の授業を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

家での勉強には紙の辞書を使うことを強く勧めます。教科書に出てくる単語をどんどん調べ、紙の辞書と親しみましょう。練習問題なども予習して取り組んでください。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30%	オンライン試験
学年末試験(第2学期)	35%	オンライン試験
中間テスト	20%	オンラインでの音読試験
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

オンライン試験のみでの成績評価となる場合、平常点の比重はもう少し重くなります。また、オンライン試験は口頭試験(面接のような)になる可能性もあります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験のあとには問題と解答についての解説を、音読試験のあとには全体の講評をします。

教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版,2018,9784255352800

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー,久保田剛史、高橋信良、井上櫻子,朝日出版社,9784255352527

参考文献コメント

辞書については、紙媒体の辞書をお勧めします。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360100103	科目ナンバリング	036A101
講義名	○基礎演習 I C		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 遠隔授業.通年 木曜日 2時限 西2-305.通年 木曜日 2時限 対面授業		

授業概要

フランス語の基礎を学ぶ。

到達目標

フランス語の基礎文法を習得し、簡単なフランス語のテキストを読めるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文字と発音
第3回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第4回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第5回	Leçon 2 (1): être、avoir、否定文2
第6回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第7回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第8回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第9回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第10回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第11回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第12回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第13回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第14回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第15回	理解度の確認
第16回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第17回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第18回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第19回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第20回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第21回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第22回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第23回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第24回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第25回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第26回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第27回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第28回	補遺: 単純過去、前過去
第29回	補遺: 接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形、自由間接話法
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容は目安であり、授業の進度に応じて変更することがある。

授業方法(対面授業の場合)

講義

授業方法(遠隔授業の場合)

Webclassで資料を事前に配布+Zoomにて同時配信授業

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前: 指定した練習問題を行うこと。

授業後: 文法事項や単語などを復習すること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。変更する場合は授業内に指示する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト、期末テストの答案を返却する。必要に応じて授業内で解説を行う。

教科書

グラメール・フランセーズ, 学習院フランス語教育研究会, 朝日出版社, 2018

フランス語動詞60ー活用・用法・索引ー, 久保田剛史、高橋信良、井上櫻子, 朝日出版社, 2015, 978-4-255-35252-7

参考文献コメント

辞書、参考書などは教室で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

対面授業、遠隔授業をどうするかなど、未確定な要素が多いので、連絡には留意すること。

紙の仏和辞書を準備すること。予習・復習を欠かさないこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360101101	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡA		
副題	フランス語読解とフランス語実践文法演習		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	中条 省平.川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 月曜日 1時限 西2-503.通年 月曜日 1時限 対面授業.通年 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、フランス語の実践的文法演習を行う。
第2回	テキスト読解、フランス語実践演習(1)
第3回	テキスト読解、フランス語実践演習(2)
第4回	テキスト読解、フランス語実践演習(3)
第5回	テキスト読解、フランス語実践演習(4)
第6回	テキスト読解、フランス語実践演習(5)
第7回	テキスト読解、フランス語実践演習(6)
第8回	テキスト読解、フランス語実践演習(7)
第9回	テキスト読解、フランス語実践演習(8)
第10回	テキスト読解、フランス語実践演習(9)
第11回	テキスト読解、フランス語実践演習(10)
第12回	テキスト読解、フランス語実践演習(11)
第13回	テキスト読解、フランス語実践演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、フランス語実践演習(13)
第17回	テキスト読解、フランス語実践演習(14)
第18回	テキスト読解、フランス語実践演習(15)
第19回	テキスト読解、フランス語実践演習(16)
第20回	テキスト読解、フランス語実践演習(17)
第21回	テキスト読解、フランス語実践演習(18)
第22回	テキスト読解、フランス語実践演習(19)
第23回	テキスト読解、フランス語実践演習(20)
第24回	テキスト読解、フランス語実践演習(21)
第25回	テキスト読解、フランス語実践演習(22)
第26回	テキスト読解、フランス語実践演習(23)
第27回	テキスト読解、フランス語実践演習(24)
第28回	テキスト読解、フランス語実践演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業計画コメント

上記はあくまでも平常時での計画である。2020年度と同じく、2021年度もコロナ禍の状況は見通せない。その場合、感染状況によって計画や内容も弾力的に変化させる可能性があることに留意してほしい。また、対面授業にするか遠隔授業にするかの判断もその状況による。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式でおこなう。

授業方法(遠隔授業の場合)

WebClass、Zoomなどを用いる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% 小テスト:10% 学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に教示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360101102	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡB		
英文科目名	Practical works on the basic French language, Ⅱ		
担当者名	野村 正人.土橋 友梨子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 火曜日 1時限 遠隔授業.通年 木曜日 5時限 南1-304.通年 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に拡げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、中級文法の演習を行う。
第2回	テキスト読解、文法演習(1)
第3回	テキスト読解、文法演習(2)
第4回	テキスト読解、文法演習(3)
第5回	テキスト読解、文法演習(4)
第6回	テキスト読解、文法演習(5)
第7回	テキスト読解、文法演習(6)
第8回	テキスト読解、文法演習(7)
第9回	テキスト読解、文法演習(8)
第10回	テキスト読解、文法演習(9)
第11回	テキスト読解、文法演習(10)
第12回	テキスト読解、文法演習(11)
第13回	テキスト読解、文法演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、文法演習(13)
第17回	テキスト読解、文法演習(14)
第18回	テキスト読解、文法演習(15)
第19回	テキスト読解、文法演習(16)
第20回	テキスト読解、文法演習(17)
第21回	テキスト読解、文法演習(18)
第22回	テキスト読解、文法演習(19)
第23回	テキスト読解、文法演習(20)
第24回	テキスト読解、文法演習(21)
第25回	テキスト読解、文法演習(22)
第26回	テキスト読解、文法演習(23)
第27回	テキスト読解、文法演習(24)
第28回	テキスト読解、文法演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業方法(対面授業の場合)

文法事項の説明、練習問題の解説、仏文和訳の読解と解説を行う。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型の併用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	小テスト、訳読の出来具合による
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験やレポートは実施後に採点、コメントをつけて返却する。

教科書コメント

授業時に指示

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。履修者数制限あり。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360101103	科目ナンバリング	036A102
講義名	○基礎演習ⅡC		
副題	フランス語読解とフランス語実践演習		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	中山 慎太郎.清水 さやか		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 火曜日 1時限 西1-302.通年 火曜日 1時限 対面授業.通年 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	テキスト読解、フランス語実践演習(1)
第3回	テキスト読解、フランス語実践演習(2)
第4回	テキスト読解、フランス語実践演習(3)
第5回	テキスト読解、フランス語実践演習(4)
第6回	テキスト読解、フランス語実践演習(5)
第7回	テキスト読解、フランス語実践演習(6)
第8回	テキスト読解、フランス語実践演習(7)
第9回	テキスト読解、フランス語実践演習(8)
第10回	テキスト読解、フランス語実践演習(9)
第11回	テキスト読解、フランス語実践演習(10)
第12回	テキスト読解、フランス語実践演習(11)
第13回	テキスト読解、フランス語実践演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、フランス語実践演習(13)
第17回	テキスト読解、フランス語実践演習(14)
第18回	テキスト読解、フランス語実践演習(15)
第19回	テキスト読解、フランス語実践演習(16)
第20回	テキスト読解、フランス語実践演習(17)
第21回	テキスト読解、フランス語実践演習(18)
第22回	テキスト読解、フランス語実践演習(19)
第23回	テキスト読解、フランス語実践演習(20)
第24回	テキスト読解、フランス語実践演習(21)
第25回	テキスト読解、フランス語実践演習(22)
第26回	テキスト読解、フランス語実践演習(23)
第27回	テキスト読解、フランス語実践演習(24)
第28回	テキスト読解、フランス語実践演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

授業計画コメント

毎週1回は仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回ではフランス語の実践的演習を行う。

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomによる同時配信型を予定している

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキスト読解: 事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、和訳しておくこと。
フランス語実践演習: 辞書を丹念に引き、初級文法を学んだ教科書を参照しながら練習問題などを行うこと。
(それぞれ約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% 小テスト:10% 学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性などを考慮して総合的に採点する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でフィードバックを行う。

教科書

Dora Bruder,Patrick Modiano,Gallimard,1999,978-2070362769

教科書コメント

使用テキストについては初回授業時に指示する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に教示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

対面授業、遠隔授業をどうするか等、未確定なことが多いので、教員からの連絡には留意すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360102101	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習A		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 中央-405.通年 木曜日 4時限 対面授業		

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法(対面授業の場合)

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

授業方法(遠隔授業の場合)

Même chose, sauf qu'il faudra alors écrire sa traduction sur l'écran et non sur le tableau.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360102102	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習B		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 5時限 中央-405.通年 木曜日 5時限 対面授業		

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法(対面授業の場合)

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

授業方法(遠隔授業の場合)

Même chose, sauf qu'il faudra alors écrire sa traduction sur l'écran et non sur le tableau.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360102103	科目ナンバリング	036A103
講義名	フランス語演習C		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	DARTOIS-AKO Myriam		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 西1-202.通年 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

授業方法(対面授業の場合)

J'interrogerai les étudiants un par un au cours de l'année (au moins deux fois par semestre) et les prierai de venir écrire au tableau la traduction qu'ils proposent d'une phrase donnée.

授業方法(遠隔授業の場合)

Même chose, sauf qu'il faudra alors écrire sa traduction sur l'écran et non sur le tableau.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	

その他(備考欄を参照)		
-------------	--	--

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que les examens seront rendus accompagnés de commentaires et d'un corrigé expliqué en classe.

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103101	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールA		
副題	フランソワ・モーリヤック研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 西2-403.通年 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

フランソワ・モーリヤック『テレーズ・デスケルー』(1927)を読む。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	モーリヤックおよび『テレーズ・デスケルー』についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	後期ガイダンス
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第29回	まとめ
第30回	自主研究

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用する)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	夏期レポートおよび学年末レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

Thérèse Desqueyroux: Le Livre de Poche, François Mauriac, Librairie Générale française, 2017, 9782253004219

履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103102	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールB		
副題	フランス映画史研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 2時限 西2-503.通年 月曜日 2時限 対面授業		

授業概要

トーカー以降の映画史の名せりふを集めた『映画の最も名高い台詞の歴史』(ヴィダル&グラセール共編)を題材にして、エスプリにみちたフランス語を読み解く方法を学び、同時に、映画の歴史および20世紀フランスの社会状況や思想について研究する。

到達目標

映画の見方を理解し、フランス映画史の概略およびフランス文化史の基礎を把握し、批評および口語に用いられるフランス語の読み方を上達させられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	映画作家の紹介および作品の内容概説
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(1)
第3回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(2)
第4回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(3)
第5回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(4)
第6回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(5)
第7回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(6)
第8回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(7)
第9回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(8)
第10回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(9)
第11回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(10)
第12回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(11)
第13回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(13)
第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

上記はあくまでも平常時の計画である。しかし、2020年度と同じく、コロナ禍の感染状況によって、2021年度も計画および内容が変化する可能性があることに留意されたい。対面授業にするか遠隔授業にするかの判断もその状況による。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式による

授業方法(遠隔授業の場合)

WebClassとZoomを用いる

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら、また、未知の事項を百科事典、映画事典など適切な事典類を用いて調べながら、原書テキストの5ページほどを読んでおくこと(1時間半)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

詳細は第1回目の授業で指示する。

参考文献コメント

Vidal&Glasser :Histoire des plus celebres repliques du cinema (Ramsay)

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103103	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールC		
副題	フランスの政治諷刺画		
英文科目名	Seminar		
担当者名	野村 正人		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 西2-503.通年 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

西欧の近代において、政治諷刺画はどのように誕生して、どのような発展をしていったのかを考える。とりわけ政治諷刺画の黄金時代といわれるフランスの7月王制期の政治諷刺画に焦点をあて、諷刺画の表現方法、法的規制との関係などを詳しく見ていく。

到達目標

19世紀における政治諷刺画の歴史とその表現をよく理解する。19世紀西欧に見られる報道の自由とその抑圧の歴史を理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	近代における政治諷刺とはなにか
第2回	18世紀までの政治諷刺(オランダ、イタリア、イギリス)(1)
第3回	18世紀までの政治諷刺(オランダ、イタリア、イギリス)(2)
第4回	大革命期の政治諷刺(1)
第5回	大革命期の政治諷刺(2)
第6回	大革命期の政治諷刺(3)
第7回	ナポレオン時代から王政復古期までの政治諷刺(1)
第8回	ナポレオン時代から王政復古期までの政治諷刺(2)
第9回	ナポレオン時代から王政復古期までの政治諷刺(3)
第10回	七月革命と諷刺
第11回	洋梨王の誕生と流行(1)
第12回	洋梨王の誕生と流行(2)
第13回	諷刺新聞『ラ・カリカチュール』(1)
第14回	諷刺新聞『ラ・カリカチュール』(2)
第15回	達成度確認
第16回	グランヴィルとドーミエ
第17回	体制派の新聞
第18回	大きな鼻と浣腸器
第19回	グループの研究発表(A)
第20回	2月革命期の諷刺画(1)
第21回	グループの研究発表(B)
第22回	2月革命期の諷刺画(2)
第23回	グループの研究発表(C)
第24回	2月革命期の諷刺画(3)
第25回	グループの研究発表(D)
第26回	1870年以降の政治諷刺(1)
第27回	1870年以降の政治諷刺(2)
第28回	1870年以降の政治諷刺(3)
第29回	後期のまとめ
第30回	達成度確認

授業方法(対面授業の場合)

前後期を通じて、政治諷刺の歴史の講義とテキストの読解を行い、後期には、受講者をグループにわけて、政治諷刺画に関する研究発表も併行して行う。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型を併用する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で読むフランス語のテキストの下読みをしておくこと(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	レポートに代える可能性あり
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	グループ発表
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポート、試験の答えは採点、コメントをつけて返却する。

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103104	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールD		
副題	翻訳者への第一歩		
英文科目名	Seminar		
担当者名	堀内 ゆかり		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 西1-104.通年 月曜日 3時限 対面授業		

授業概要

フランス語の文章をよく読み、意味を正確に理解したうえで、もとの文章の雰囲気を保つ日本語にするトレーニングをします。原文のリズムを感じるためには音読、原文を正確に読むにはフランス語力も不可欠です。自分の興味に応じたテーマに関する発表も予定しています。

到達目標

「自分で考える」とは？ 翻訳や発表を通じて「自分で考える」ことを体得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction (1) ゼミの進め方について、フランス語力測定
第2回	Introduction(2)
第3回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第4回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第5回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第6回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第7回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第8回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第9回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第10回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第11回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第12回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第13回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第14回	まとめ
第15回	振り返り
第16回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント フランス語力測定
第17回	学生による発表、学生相互によるコメント
第18回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第19回	学生による発表、学生相互によるコメント
第20回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第21回	学生による発表、学生相互によるコメント
第22回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第23回	学生による発表、学生相互によるコメント
第24回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第25回	学生による発表、学生相互によるコメント
第26回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第27回	学生による発表、学生相互によるコメント
第28回	音読、学生による翻訳の発表、学生相互によるコメント
第29回	まとめ
第30回	振り返り

授業方法(対面授業の場合)

演習形式。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

翻訳発表の準備(1時間以上)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	10 %	
学年末試験(第2学期)	10 %	
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	参加度で評価します
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

原則として返却します

教科書

Le Voyage de Babar:Lutin,Jean de Brunhoff,Hachette,9782211063432

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103105	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールE		
副題	José Maria de Heredia		
英文科目名	Seminar		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 西1-109.通年 水曜日 4時限 対面授業		

授業概要

Ce séminaire portera principalement sur Les Trophées, oeuvre quasiment unique du poète parnassien José Maria de Heredia (né à Cuba en 1842, mort près de Paris en 1905). Ce recueil a la caractéristique paradoxale de raconter l'histoire du monde, mythique ou réelle, presque exclusivement à travers la forme fixe du sonnet, connue pour sa brièveté, tout entière tendue vers le dernier vers qui en constitue la pointe.

到達目標

Après une initiation aux principes de la versification et une histoire du sonnet en France, nous entreprendrons la lecture de certains poèmes appartenant aux différentes sections du livre ("La Grèce et la Sicile", "Rome et les barbares", "Le Moyen Âge et la Renaissance", "L'Orient et les Tropiques", "La nature et le rêve", "Romancero"). Sans doute laisserons-nous de côté le texte intitulé "Les Conquérants de l'Or", qui n'est pas un sonnet.

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|--|
| 第1回 | Introduction générale. |
| 第2回 | Le système de versification français. |
| 第3回 | La forme-sonnet en France. |
| 第4回 | Poésie et histoire. |
| 第5回 | Le mouvement parnassien. |
| 第6回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第7回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第8回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第9回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第10回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第11回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第12回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第13回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第14回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第15回 | Bilan du premier semestre. |
| 第16回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第17回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第18回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第19回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第20回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第21回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第22回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第23回 | Lecture d'un sonnet. |
| 第24回 | Exposé des étudiants (Lecture d'un sonnet). |
| 第25回 | Exposé des étudiants (Lecture d'un sonnet). |
| 第26回 | Exposé des étudiants (Lecture d'un sonnet). |
| 第27回 | Exposé des étudiants (Lecture d'un sonnet). |
| 第28回 | Exposé des étudiants (Lecture d'un sonnet). |
| 第29回 | Lecture d'un dernier sonnet (pour la route !). |
| 第30回 | Bilan de l'année. |

授業計画コメント

Le nombre de séances consacrées aux exposés, à la fin du second semestre, dépendra évidemment du nombre total des étudiants.

授業方法(対面授業の場合)

Le professeur explique et les étudiants prennent des notes et posent des questions lorsqu'ils ne comprennent pas : original, comme méthode, non ?

授業方法(遠隔授業の場合)

Ce sera exactement la même chose, que ce soit "en ligne" ou pas.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Les étudiants pourront éventuellement chercher le vocabulaire des poèmes que nous étudierons : cela ne devrait pas les aider beaucoup mais ne leur fera sans doute aucun mal.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

L'évaluation se fera principalement sur la base des exposés. Les étudiants devront choisir un sonnet, parmi une liste que j'aurai proposée, et l'expliquer oralement devant leurs camarades, en français, selon les techniques que je leur aurai enseignées dans les cours précédents.

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi qu'après chaque exposé j'interviendrai pour reprendre ce qui a été dit, éventuellement le corriger ou y apporter des précisions.

教科書

Les Trophées : Poésie, José Maria de Heredia, Gallimard, 1981, ISBN-13 : 978-2070322084

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103106	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールF		
副題	作家たちの占領下 III		
英文科目名	Seminar		
担当者名	水野 雅司		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 西1-105.通年 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

昨年度に引き続き、占領下のフランスをテーマとした作品や当時の状況に関する証言等を取り上げ、当時の作家・芸術家・知識人たちが歴史的現実とどのように向き合っていたのか、あるいは後の世代がどのように向き合おうとしているのかを考察すると同時に、文学・芸術における〈歴史と記憶〉という問題にも目を向けたい。

到達目標

第二次世界大戦下のフランスに関する作品や文献に接することで、歴史的現実とそれに対する人間の表現活動のさまざまなあり方について理解を深め、自分なりの考えを持てるようになること、またそれを自分の言葉でまとめることができるようになることを目標とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	Introduction I：第1学期の授業の進め方について等
第2回	テキスト訳読と解説(1)
第3回	テキスト訳読と解説(2)
第4回	テキスト訳読と解説(3)
第5回	サブテキスト・資料による演習と討議(1)
第6回	テキスト訳読と解説(4)
第7回	テキスト訳読と解説(5)
第8回	テキスト訳読と解説(6)
第9回	サブテキスト・資料による演習と討議(2)
第10回	テキスト訳読と解説(7)
第11回	テキスト訳読と解説(8)
第12回	テキスト訳読と解説(9)
第13回	テキスト訳読と解説(10)
第14回	サブテキスト・資料による演習と討議(3)
第15回	理解度の確認
第16回	Introduction II：学期末試験の返却と解説、第2学期の授業の進め方、研究発表の準備について等
第17回	テキスト訳読と解説(11)
第18回	テキスト訳読と解説(12)
第19回	サブテキスト・資料による演習と討議(4)
第20回	テキスト訳読と解説(13)
第21回	テキスト訳読と解説(14)
第22回	研究発表と討議(1)
第23回	研究発表と討議(2)
第24回	研究発表と討議(3)
第25回	研究発表と討議(4)
第26回	研究発表と討議(5)
第27回	研究発表と討議(6)
第28回	研究発表と討議(7)
第29回	研究発表と討議(8)
第30回	研究発表と討議(まとめ)

授業計画コメント

占領下の生活や風俗を知るために、随時、映像や音声資料なども活用します。また研究発表の時期については、進度その他の都合上、多少前後する場合があります。

授業方法(対面授業の場合)

第1学期と第2学期の途中までは、テキストの熟読がメインです。分担を決め、担当者が訳文を発表し、それに対する教員の解説が中心になります。また、随時、サブテキストや音声・映像資料などをもとに参加者同士で討議したり、課題提出をしてもらう予定です。

第2学期の後半は、各自の関心にもとづいてあらかじめ決めておいたテーマについて研究発表をしてもらい、発表後、参加者全員で討議します。また学年末に研究発表での討議をもとにレポートにまとめ提出してもらいます。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoom 上で行ないます。資料の配布や提出物の回収、練習問題や小テストなどは WebClass を使用します。授業内容・進め方などは、対面授業の場合と基本的に同じです。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点を明確しておくこと。研究発表のテーマが決定したら、授業と並行して、自主的に関連文献などを読み、各自で準備しておく必要があります。指示された参考文献にも目を通しておくこと。(約1~2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	レポート等に代える場合もある。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	学年末レポート。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	研究発表。討議への参加度など。
その他(備考欄を参照)	10 %	課題提出など。

成績評価コメント

上記はあくまでも目安です。学期末試験、第2学期の研究発表、学年末レポート、課題の成果および授業への参加度等を総合的に判断して評価します。また学期末試験に代えてレポート等の提出物を課す場合があります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験、確認テスト、提出課題等は、採点後に授業内または WebClass のメッセージ等で返却・解説します。

教科書

Un Pedigree, Patrick Modiano, Gallimard, Folio, 2006, 978-2-07-032102-5

参考文献

ナチ占領下のフランス - 沈黙・抵抗・協力 - : 講談社選書メチエ, 渡辺和行, 講談社, 1994

ホロコーストのフランス, 渡辺和行, 人文書院, 1998

占領下パリの思想家たち - 収容所と亡命の時代: 平凡社新書, 桜井哲夫, 平凡社, 2007

参考文献コメント

その他、随時授業内で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

質問や連絡などは WebClass のメッセージ機能にて受け付けます。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103107	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールG		
副題	エルナニとエルナーニ		
英文科目名	Seminar		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 西5-301.通年 水曜日 2時限 対面授業		

授業概要

ヴィクトル・ユゴーの『エルナニ』を読み解く。ユゴーの作品をもとにして作られたヴェルディのオペラ『エルナーニ』を参照しながら『エルナニ』の魅力を探る。ユゴーの作品世界を理解するために、ユゴーの他の作品も必要に応じて紹介していく。また、オペラ作品との比較をするに伴い、19世紀フランスの音楽と文学の関わりについても視野に入れる。

到達目標

ヴィクトル・ユゴーおよびユゴーの生きた時代の文化についての理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ユゴー/ヴェルディ紹介
第3回	テキスト1講読
第4回	テキスト1続き
第5回	テキスト2講読
第6回	テキスト2続き
第7回	『エルナーニ』など映像資料鑑賞
第8回	テキスト3講読
第9回	テキスト3続き
第10回	テキスト4講読
第11回	テキスト4続き
第12回	テキスト5講読
第13回	テキスト5続き
第14回	『エルナニ』の映像資料鑑賞その1
第15回	まとめ
第16回	テキスト6
第17回	テキスト6続き
第18回	受講生による発表、質疑応答、補足説明
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	同上
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	『エルナニ』映像資料の鑑賞その2
第29回	理解度の確認
第30回	まとめ

授業計画コメント

授業で扱うテキストについては授業開始直後に渡します。授業進度、内容については修正・変更を加える可能性があります。

授業方法(対面授業の場合)

テキストの講読。映像資料も必要に応じて見ます。

授業方法(遠隔授業の場合)

Web ClassとZoomを使用した同時配信授業で、対面授業と同じ内容の授業をします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布されたテキストをあらかじめ読んでくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	オンラインでの発表も含む。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは夏休みに一回の予定だが、学年末にもレポートを課す可能性はある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

夏休みのレポートにはコメントをつけて返却する。

教科書コメント

資料に関しては授業内で指示をする。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360103108	科目ナンバリング	036A800
講義名	ゼミナールH		
副題	ヴォルテール『カンディード』を読む		
英文科目名	Seminar		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 西1-308.通年 金曜日 4時限 対面授業		

授業概要

ヴォルテール『カンディード』を読む。

到達目標

辞書などを活用して、フランス語の文章を読み解くことができる。作品の歴史的・文化的な背景を踏まえた上で、内容を理解し、それについて自分の言葉で表現できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	作家・作品の紹介ならびに概要の説明
第2回	同上
第3回	訳読・発表
第4回	同上
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究
第16回	先学期に行ったことの確認と、新学期の概要の説明
第17回	訳読・発表
第18回	同上
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	授業のまとめ
第30回	自主研究

授業方法(対面授業の場合)

演習形式

授業方法(遠隔授業の場合)

Webclassで資料やレジュメのやり取りをしつつ、Zoomでリアルタイム。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に該当箇所を読むこと。語彙、文法、その他の背景知識についても調べ、疑問点を明確にすること。(約一時間)その他、指示された参考資料に目を通しておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合は、あくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや発表に対して、適宜、コメントや講評を行う。

教科書

Candide, Voltaire, Le Livre de poche, 9782253098089

教科書コメント

授業内で指示します。

参考文献コメント

参考文献は授業内で指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

発表の無断欠席と、レポート等での不正には厳正に対処します。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360106101	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習A		
副題	フランス暗黒小説読解		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 火曜日 1時限 中央-507.通年 火曜日 1時限 対面授業		

授業概要

フランスの暗黒小説(探偵小説)の短篇を集めた『犯罪真髓』(ルブラン&メスプレード共編)を題材にして、小説読解の方法を学び、同時に、19~20世紀フランスの政治・社会状況および文学をめぐる思想について研究する。

到達目標

近代の探偵小説(ミステリー)の歴史と手法の概略を理解し、そのフランスにおける独自の展開と特性を把握し、フランスで一般的に人気のあるミステリーを原文で読めるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	序説:フランス暗黒小説の歴史
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(1)
第3回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(2)
第4回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(3)
第5回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(4)
第6回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(5)
第7回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(6)
第8回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(7)
第9回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(8)
第10回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(9)
第11回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(10)
第12回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(11)
第13回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(13)
第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

以上は平常時の計画である。しかし、2021年度も、2020年度と同じく、コロナ禍の状況によって計画や内容が変化させられる可能性があることに留意されたい。対面授業にするか遠隔授業にするかの判断もその状況による。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式による

授業方法(遠隔授業の場合)

WebClassとZoomを用いる

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら原書の5ページほどを読んでおくこと(約1時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

第1回目の授業時に指示する。

参考文献コメント

M. Lebrun & C. Mesplede : La Crème du crime (l'Atalante)

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360106102	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習B		
副題	美術館・博物館の誕生		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	野村 正人		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 火曜日 2時限 中央-405.通年 火曜日 2時限 対面授業		

授業概要

Roland Schaer, *L'invention des musées* (Gallimard) を読みながら、西欧において近代的な美術館・博物館がどのような背景のなかで誕生し、発展したのかを考察する。

到達目標

19世紀20世紀のフランスにおける美術館・博物館の整備の歴史をたどることによって、美術の保存、一般公開の持つ意味と同時に、この時代に生まれた文化遺産の観念についての理解を深める。

授業内容

実施回	内容
第1回	美術館・博物館前史(アレキサンドリアのムセイオンからフランス大革命まで) (1)
第2回	美術館・博物館前史(アレキサンドリアのムセイオンからフランス大革命まで) (2)
第3回	美術館・博物館前史(アレキサンドリアのムセイオンからフランス大革命まで) (3)
第4回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(1)
第5回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(2)
第6回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(3)
第7回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(4)
第8回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(5)
第9回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(6)
第10回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(7)
第11回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(8)
第12回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(9)
第13回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(10)
第14回	前期のまとめ
第15回	達成度確認
第16回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(11)
第17回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(12)
第18回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(13)
第19回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(14)
第20回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(15)
第21回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(16)
第22回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(17)
第23回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(18)
第24回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(19)
第25回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(20)
第26回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(21)
第27回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(22)
第28回	<i>L'invention des musées</i> の読解と解説(23)
第29回	後期のまとめ
第30回	達成度確認

授業方法(対面授業の場合)

事前に担当箇所を学生に指定し、その部分の訳を発表してもらい、それをもとにコメントをつけ、解説をする。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使う)とオンデマンド型を併用するが、方法は対面授業と同じ。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業当日に使用するテキストの該当箇所を下調べしておくこと(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	45 %	
学年末試験(第2学期)	45 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	和訳の発表
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験、レポートなどは採点、コメントをつけて返却する。

教科書

L'invention des musées: Découvertes, Roland Schaer, Gallimard, 1993, 978-2070532308

教科書コメント

必要に応じてプリント配布。

参考文献コメント

授業時に指示

履修上の注意

履修者数制限あり。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360106103	科目ナンバリング	036A902
講義名	卒業演習C		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 水曜日 1時限 西5-301.通年 水曜日 1時限 対面授業		

授業概要

Jean-Luc Lagarce (1957-1995)の初期作品の抜粋を精読していく。戯曲作品なので、作品を読み解くと同時に、関連作品の上演映像なども見て理解を深める。研究書の抜粋なども必要に応じて読む。

到達目標

作品に描かれた世界を理解することによって、書かれた時代のフランス文化全般およびフランス演劇について知識を深めること。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション/作品および作家について
第2回	テキスト1の訳読および解説。
第3回	テキスト2の訳読および解説。
第4回	テキスト3の訳読および解説。
第5回	テキスト4の訳読および解説。
第6回	テキスト5の訳読および解説。
第7回	テキスト6の訳読および解説。
第8回	テキスト7の訳読および解説。
第9回	テキスト8の訳読および解説。
第10回	テキスト9の訳読および解説。
第11回	テキスト10の訳読および解説。
第12回	テキスト11の訳読および解説。
第13回	テキスト12の訳読および解説。
第14回	理解度の確認。
第15回	第1期のまとめ。
第16回	関連作品の紹介。
第17回	テキスト13の訳読および解説。
第18回	テキスト14の訳読および解説。
第19回	テキスト15の訳読および解説。
第20回	テキスト16の訳読および解説。
第21回	テキスト17の訳読および解説。
第22回	テキスト18の訳読および解説。
第23回	テキスト19の訳読および解説。
第24回	テキスト20の訳読および解説。
第25回	テキスト21の訳読および解説。
第26回	テキスト22の訳読および解説。
第27回	テキスト23の訳読および解説。
第28回	テキスト24の訳読および解説。
第29回	理解度の確認。
第30回	1年間の総まとめ。

授業計画コメント

授業計画を変更する場合は授業内で事前に告知する。

授業方法(対面授業の場合)

受講者はあらかじめ渡されたテキストを音読し、訳す。教員はテキストの文法的小および文化的背景を補足説明する。

授業方法(遠隔授業の場合)

受講者はあらかじめ指定された箇所の訳文をWeb Classから提出し、教員は授業内でその添削を提示しながら文法的・文化的な補足説明をする。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ渡されたテキストを訳してくる。ただ訳すだけではなく、文中に現れる固有名詞などにも気をつけ、調べながら訳す。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト	10 %	音読テスト
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

オンライン試験となる場合は音読テストおよび平常点の比重は重くなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期の筆記試験は採点したものを返却。返却時に解説を行う。音読テストはテスト後に全体の講評を述べる。

教科書コメント

授業時に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107101	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習A		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2-403.第1学期 金曜日 5時限 対面授業*		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	論理的な文章の要約①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	論理的な文章の要約②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	論理的な文章の要約③
第9回	グループごとの発表①
第10回	論理的な文章の要約④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	予備日
第15回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法(対面授業の場合)

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型を併用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107102	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習B		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	野村 正人		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2-403.第1学期 金曜日 5時限 対面授業*		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	論理的な文章の要約①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	論理的な文章の要約②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	論理的な文章の要約③
第9回	グループごとの発表①
第10回	論理的な文章の要約④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	予備日
第15回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法(対面授業の場合)

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型を併用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107103	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習C		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	土橋 友梨子		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2-305.第1学期 金曜日 5時限 対面授業*		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	論理的な文章の要約①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	論理的な文章の要約②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	論理的な文章の要約③
第9回	グループごとの発表①
第10回	論理的な文章の要約④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	予備日
第15回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法(対面授業の場合)

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型を併用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360107104	科目ナンバリング	036A407
講義名	入門演習D		
英文科目名	Introduction to Academic Skills		
担当者名	中山 慎太郎		
単位	2	配当年次	学部 1年
時間割	第1学期 金曜日 5時限 西2-305.第1学期 金曜日 5時限 対面授業*		

授業概要

大学で学ぶにあたって必要なアカデミック・スキル(課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポートの作成、発表の仕方等)を、少人数の演習形式で習得する。

到達目標

1. 高校までとは異なる、大学での学び方を身につける。
2. 論理的なテキストを読解し、内容を要約できるようになる。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。
4. 説得的な口頭発表の仕方を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	図書館の利用、資料・文献の検索
第3回	口頭発表グループ分け・テーマの設定
第4回	論理的な文章の要約①
第5回	口頭発表の仕方
第6回	論理的な文章の要約②
第7回	口頭発表の中間報告
第8回	論理的な文章の要約③
第9回	グループごとの発表①
第10回	論理的な文章の要約④
第11回	グループごとの発表②
第12回	レポートの書き方①
第13回	レポートの書き方②
第14回	予備日
第15回	授業のまとめ

授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進捗によって変更する可能性があることは言うまでもない。

授業方法(対面授業の場合)

講義、グループワーク、ディスカッションを組み合わせで行う

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)とオンデマンド型を併用

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回課題を出す。授業はその課題をもとに進めるので、必ずやってくること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	最終レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	課題の提出と授業への積極的な参加を重視する
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出された課題は授業内で解説をおこなう。レポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

参考文献

大学生 学びのハンドブック,世界思想社編集部・編,世界思想社編集部,4訂,2019,978-4-7907-1707-2
新版 論文の教室 レポートから卒論まで,戸田山和久,NHK出版,2012,978-4140911945

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360200101	科目ナンバリング	036A201
講義名	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語は系統的にも文法構造上も日本語とは全く異なった言語である。にもかかわらず、ともに「頭(tête)」という語は、「人間の頭、くぎの頭、冒頭」を指すことができる。他方、フランス語には、複合過去、半過去、大過去、単純過去など、日本語には存在しない多くの過去を示す形態がある。この授業では、フランス語を日本語と比較対照させることで、ことばについて考え、言語学の第一歩となるような視点を養うことを目的とする。具体的には、新聞、小説などから実際に収集した例文を観察し、日本語と対照させることで、フランス語の語彙の使い方、またフランス語の人称、時制、法、態などの文法形式がどのように言語外現実を表現しているかを考察する。さらに、フランス語の歴史や21世紀におけるフランス語圏の現状についても考える。

到達目標

フランス語がなぜイタリア語やスペイン語と似ているのか理解できるようになる。フランス語の文法(複合過去と半過去の違い、部分冠詞とは?)について、より具体的に理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	フランス語圏の国々の現状(1) ヨーロッパ、カナダ、ルイジアナ
第3回	フランス語圏の国々の現状(2) アフリカ、南太平洋、カリブ海
第4回	様々な地域のフランス語
第5回	フランス語の歴史、変遷(1)ストラスブールの誓約
第6回	フランス語の歴史、変遷(2)中世
第7回	フランス語の歴史、変遷(3)近・現代
第8回	フランスにおける様々な地域語と海外領土
第9回	翻訳とは?
第10回	翻訳と借用語
第11回	固有名詞の翻訳
第12回	言葉遊び
第13回	なぞなぞ、ダジャレ
第14回	笑い話
第15回	予備日
第16回	レトリック
第17回	直喩・隠喩
第18回	換喩
第19回	仏語学的考察(1) 疑問文
第20回	仏語学的考察(2) 命令文
第21回	仏語学的考察(3) 名詞の性
第22回	仏語学的考察(4) 部分冠詞・不定冠詞
第23回	仏語学的考察(5) 定冠詞
第24回	仏語学的考察(6) 複合過去と半過去
第25回	仏語学的考察(7) 大過去、単純過去、近接過去
第26回	仏語学的考察(8) 単純未来と近接未来
第27回	仏語学的考察(9) 受動態・代名動詞
第28回	誤用
第29回	新語法
第30回	授業の総括

授業方法(対面授業の場合)

授業内容をスクリーンに映し出し、テーマに沿って講義をおこなう

授業方法(遠隔授業の場合)

パワーポイントに授業内容を録音したビデオを配信するオンデマンド型をとる

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

フランス語の初級文法の教科書を復習しておくことが好ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	課題提出
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

原則として、第1学期末にレポート提出、学年末に試験を行う予定。また、毎回授業後に行う授業の復習を兼ねたコメントの提出、及び授業への参加、出席(オンデマンドの場合は課題提出)などの平常点も成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントカードに書かれた質問については、次の授業で答え、フィードバックを行う。

教科書コメント

必要に応じてプリントにて配布

参考文献

- 冠詞の謎を解く,小田涼,白水社,2019
- 中級フランス語 あらわす文法,東郷雄二,白水社,2011
- Le bon usage,M.Grevisse,Duculot,2011
- フランス語とはどういう言語か,大橋保夫,駿河台出版,1993
- 翻訳仏文法(上)(下),鷺見洋一,ちくま学芸文庫,2003

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の2年生、またはフランス語既習の1年生のみ履修可能。他学科の学生は履修不可。フランス語未習の学生は履修を認めない。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360201101	科目ナンバリング	036A202
講義名	フランス語圏文化入門(舞台・映像)		
副題	フランス語圏の映画史		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Theater & Films)		
担当者名	大原 宣久		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 中央-404.通年 金曜日 1時限 対面授業		

授業概要

フランスを中心とした映画史のおおまかな流れ、映画表現の変遷をたどっていきます。

と同時に、その変遷をよりよく理解するために、フランスにこだわらず、古今の名作を題材に、映画作品にどのような主題が選ばれ、どのような技法が使われ、どのような要素が盛り込まれているか、そしてそれらはいかにして統合され、どのような意味を作品に与えているか等について、考察していきます。

以上に関しては、実際の授業では概論的な説明のみに頼るのではなく、なるべく実際の映画・映像を見ながら実感・体験していけるようにしたいと思います。

到達目標

- 1、映画史(とくにフランス語圏の映画)の変遷をおおまかに理解できるようになる。
- 2、映画の制度的・形式的側面について学び、映画を分析的に見ることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション——映画誕生(リュミエール兄弟～ジョルジュ・メリエス)
第2回	サイレント映画の時代——グリフィス、ガンズ、エイゼンシュテイン、チャップリン
第3回	ルネ・クレール
第4回	ジャック・フェデー
第5回	ジュリアン・デュヴィヴィエ
第6回	マルセル・カルネ その1
第7回	マルセル・カルネ その2
第8回	ジャン・ルノワール その1
第9回	ジャン・ルノワール その2
第10回	ヌーヴェル・ヴァーグの源流1——アンドレ・バザンの思想と戦後イタリア派
第11回	ヌーヴェル・ヴァーグの源流2——オーソン・ウェルズ
第12回	ヌーヴェル・ヴァーグ その1——フランソワ・トリュフォー(1)
第13回	ヌーヴェル・ヴァーグ その2——フランソワ・トリュフォー(2)
第14回	理解度の確認
第15回	前期の振り返り
第16回	ヌーヴェル・ヴァーグ その3——ジャン＝リュック・ゴダール(1)
第17回	ヌーヴェル・ヴァーグ その4——ジャン＝リュック・ゴダール(2)
第18回	ヌーヴェル・ヴァーグ その5——エリック・ロメール(1)
第19回	ヌーヴェル・ヴァーグ その6——エリック・ロメール(1)
第20回	ヌーヴェル・ヴァーグ その7——ジャック・ドゥミ
第21回	戦後のジャン・ルノワール
第22回	ロベール・ブレッソン
第23回	アルベール・ラモリス
第24回	ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランス語圏映画 その1
第25回	ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランス語圏映画 その2
第26回	ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランス語圏映画 その3
第27回	ヌーヴェル・ヴァーグの継承者たち その1
第28回	ヌーヴェル・ヴァーグの継承者たち その2
第29回	理解度の確認
第30回	後期の振り返り

授業計画コメント

以上はあくまで予定ですので、受講者の理解度などを考慮のうえ、順序・内容等、変更する可能性があります。

授業方法(対面授業の場合)

講義

授業方法(遠隔授業の場合)

Webclassを使用しオンデマンド型で、必要に応じて文書、音声解説、映像資料などをアップロードする。
Zoomを使って同時配信する可能性もある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内で取り上げた映画作品については、授業後に通して見ておくことが望ましい。紹介した文献についても、授業前後に読んでおくことが望ましい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は出席、およびリアクションペーパーの内容で評価します。
なお、授業中の私語・遅刻・途中退席などが目立つ学生は減点することがあるので注意すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容については、検討に値するものは授業内で随時紹介し、考察・講評をおこなう。

参考文献

フランス映画史の誘惑:集英社新書,中条省平,集英社,2003,9784087201796
映画とは何か(上):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357811
映画とは何か(下):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357828

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修できるのは、フランス語圏文化学科の1、2年生のみ。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360202101	科目ナンバリング	036A203
講義名	フランス語圏文化入門(広域文化)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	澁谷 与文		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス近現代に至る技術・認識・感性の変化についてテーマごとに概観します。

到達目標

フランス近現代の文化と社会を相互に関連づけて理解できる。
現代社会の諸問題について歴史的背景を踏まえて分析できる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ワインとビール1
第3回	ワインとビール2
第4回	フランスの言語環境
第5回	中世地中海世界と知の移転
第6回	近代の起源
第7回	宗教改革
第8回	革命と反動
第9回	啓蒙と科学
第10回	革命前夜の人間観
第11回	植民地へのまなざし
第12回	啓蒙の世紀の女性と子供
第13回	教育制度と学校
第14回	夏季レポート準備回
第15回	理解度の確認
第16回	オリエンテーション
第17回	ナショナリズム・レジオナリズム・ユーロペイスム
第18回	ブルジョワ社会初期
第19回	オリジナリテ―著作権と発明特許
第20回	プロレタリアの現実
第21回	社会主義
第22回	二月革命と普通選挙
第23回	オスマン改造
第24回	ダーウィンと実証主義
第25回	植民地主義とフランコフォニー
第26回	警察・司法制度とドレフュス事件
第27回	科学万能主義の終焉
第28回	両大戦間期
第29回	冬季レポート準備回
第30回	理解度の確認

授業方法(対面授業の場合)

講義が中心ではありませんが、ジェネリックスキルを意識しつつ、学生が書いて・議論して・整理して・振り返る時間を設けます。主体的に学ぶ中で知識の交換と定着を目指しますので、授業への能動的な参加が必要です。

授業方法(遠隔授業の場合)

オンデマンドで講義ビデオを視聴してもらいますが、毎回、一部Zoomを用いた同時配信型の時間帯があります。ただし、Zoomに参加できない場合は別の選択肢も準備しています。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回、課題図書を指定する。指定された図書の指定された箇所を書店・図書館・研究室で手に入れ読解する(30分～1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	第1学期、第2学期
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	出席、毎回のリアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーには下線などの記号や点数、コメントを付して返却する。
レポートの評価基準は、授業の進捗とともに段階的に解説した後、評価基準表を配布する。

参考文献

フランス文化史I, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510018
フランス文化史II, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510025
フランス文化史III, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510032
1789年—フランス革命序論: 岩波文庫, ジョルジュ・ルフェーヴル, 岩波書店, 1998, 978-4003347614
「近代」の意味: NHKブックス, 桜井哲夫, 日本放送出版協会, 1984, 978-4140014707

参考文献コメント

毎回、推薦・参考文献表を配布する

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

フランス語圏文化学科の学生の1・2年生のみ履修可。但し、1・2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は、履修を認める。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360203101	科目ナンバリング	036A204
講義名	フランス語圏文化入門(文学・思想)		
副題	フランス文学の歴史		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	中山 慎太郎		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

中世から現代にいたるフランス語圏の文学の流れをたどりながら、毎回代表的な作品の抜粋を読んでいます。受講者各人が、それぞれの興味に従って読書を広げ、深めていく手がかりとなることを期待しています。

到達目標

1. フランス語圏文学の豊かさと多様性に触れる。
2. フランス語圏文学のおおまかな全体像を把握する。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、フランス語の成り立ち
第2回	中世(1): 聖人伝、武勲詩、トゥルバドゥール
第3回	中世(2): 『トリストアンとイゾー』——トマ版とベルール版を比較して
第4回	16世紀(1): ルネサンスとは?、人文主義とラブレー、モンテーニュ
第5回	16世紀(2): 16世紀の詩(ルイズ・ラベ、ロンサールなど)
第6回	17世紀(1): 古典主義とは? ——コルネイユ、ラシーヌ、モリエール(1)
第7回	17世紀(2): 古典主義とは? ——コルネイユ、ラシーヌ、モリエール(2)
第8回	17世紀(3): 「我惟う、ゆえに我あり」(デカルト)、「人間は考える葦である」(パスカル)
第9回	17世紀(4): 『寓話』(ラ・フォンテーヌ)、『ペロー童話集』(ペロー)
第10回	18世紀(1): 啓蒙思想とは? ——モンテスキュー、デイドロ、ヴォルテール、ルソー
第11回	18世紀(2): ファム・ファタルの原型 ——『マノン・レスコー』(アベ・プレヴォー)
第12回	18世紀(3): 書簡体小説の魅力 ——『危険な関係』(ラクロ)
第13回	18-19世紀: 擬古典主義からロマン主義へ ——ロマン主義の先駆者たち、スタール夫人、シャトーブリアン
第14回	19世紀(1): ロマン主義とは? ——ユゴー、ラマルチーヌ、ヴィニー、ミュッセ
第15回	自主研究
第16回	19世紀(2): 小説家ユゴーと他のロマン主義の作家たち、スタンダール
第17回	19世紀(3): 「人間喜劇」(バルザック)、19世紀の悪女(ファム・ファタル) ——『カルメン』(メリメ)
第18回	19世紀(4): 『悪の華』、『パリの憂愁』(ボードレー)
第19回	19世紀(5): 詩人たちの交感 ——ヴェルレーヌとランボー
第20回	19世紀(6): 写実主義から自然主義へ ——フロベール、ゾラ、モーパッサン
第21回	20世紀前半(1): 「20世紀最大の知性」 ——ヴァレリー
第22回	20世紀前半(2): 『失われた時を求めて』(プルースト)
第23回	20世紀前半(3): エスプリ・ヌーヴォーとは? ——アポリネールと前衛の芸術家たち、ベル・エポックと女流作家コレット
第24回	20世紀前半(4): 「革命」 ——ダダとシュルレアリスム
第25回	20世紀前半(5): 自由を求めて ——第二次世界大戦とレジスタンス文学
第26回	20世紀後半(1): 実存主義とは? ——サルトル、ボーヴォワール、カミュ
第27回	20世紀後半(2): 不条理演劇
第28回	20世紀後半(3): ヌーヴォー・ロマンとは?、第二次世界大戦後の詩の状況
第29回	20世紀後半(4): デュラス、クレオールとは?
第30回	自主研究

授業計画コメント

授業計画はあくまで目安ですので、授業の進度、受講者の興味に応じて内容や順序を変更することがあります。

授業方法(対面授業の場合)

講義

授業方法(遠隔授業の場合)

オンデマンド型。資料の配付、リアクションペーパーやレポートの提出にはWebclass、授業動画の配信にはgoogledriveを用いる予定。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

教科書の該当箇所と配布したテキストを事前に読んでおくこと(30分)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	前後期レポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	リアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

毎回のリアクションペーパーを重要視します。
レポートの評価の仕方については、授業内でお伝えします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーに書かれた疑問や意見に関して、各回の授業の冒頭で回答、コメントします。

参考文献

フランス文学史,田村毅・塩川徹也編,東京大学出版会,1995
新版 フランス文学史,饗庭孝男ほか編,白水社,1992
はじめて学ぶフランス文学史,横山安由美・朝比奈美知子編著,ミネルヴァ書房,2002
増補 フランス文学案内:岩波文庫,渡辺一夫・鈴木力衛編,岩波書店,1990

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

授業方法等、未確定な要素が多いので、教員からの連絡には留意すること。

フランス語圏文化学科の学生の1・2年生に限ります。但し、1,2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は、履修を認めます。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360204101	科目ナンバリング	036A301
講義名	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	寺家村 博		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 遠隔授業		

授業概要

このクラスでは1年を通してフランス語圏という概念がもつ意味、そしてフランス語圏の国や地域の中で何かを表現するというのがどのような意味を持ちうるのかを探っていきます。具体的には組織としてのフランス語圏の成立過程を学び、西ヨーロッパ、北米、アフリカなどに点在するフランス語圏の国や地域の文化的特徴をテキストを訳読しながら理解していきます。更にフランス語圏の文学作品にもできるだけ多く触れていきます。第2学期には訳読に関連したグループワークなども取り入れていく予定です。そして最終的に受講学生がフランス語圏を通してフランスをあらたに捉え直すという新しい視座を獲得することを目指します。

到達目標

フランスを内からではなく、外から理解する視点を持つことができる。フランス語圏の国々の社会、文化、言語政策などに関する知識を得ることができる。さまざまなタイプのフランス語の文章を翻訳する機会となる。また外国語としてのフランス語の「読む」能力の向上を同時に目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期オリエンテーション
第2回	簡単なフランコフォニー全般に関する文章を読む
第3回	プリント1 フランス語圏の成立1
第4回	プリント2 フランス語圏の成立2
第5回	プリント3 世界のフランス語圏を概観する1
第6回	プリント4 世界のフランス語圏を概観する2
第7回	プリント5 西ヨーロッパのフランス語圏1
第8回	プリント6 西ヨーロッパのフランス語圏2
第9回	プリント7 西ヨーロッパのフランス語圏3
第10回	プリント8 アフリカのフランス語圏
第11回	プリント9 北米のフランス語圏
第12回	プリント10 フランス語圏におけるフランス語の使用状況1
第13回	プリント11 フランス語圏におけるフランス語の使用状況2
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り
第16回	第2学期オリエンテーション
第17回	グループワークまたは個人発表(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)1
第18回	グループワークまたは個人発表(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)2
第19回	グループワークまたは個人発表(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)3
第20回	グループワークまたは個人発表(カリブ海のフランス語圏に関する発表)
第21回	グループワークまたは個人発表(アフリカのフランス語圏に関する発表)
第22回	グループワークまたは個人発表(カナダのフランス語圏に関する発表)
第23回	グループワークまたは個人発表(アジアの旧フランス植民地に関する発表)1
第24回	グループワークまたは個人発表(アジアの旧フランス植民地に関する発表)2
第25回	プリント12 カナダのフランス語圏の文学作品を読む1
第26回	プリント13 カナダのフランス語圏の文学作品を読む2
第27回	プリント14 ヨーロッパやアフリカのフランス語圏の文学作品を読む1
第28回	プリント15 ヨーロッパやアフリカのフランス語圏の文学作品を読む2
第29回	理解度の確認
第30回	振り返り

授業計画コメント

各回の授業テーマは受講者数、授業形態によって、必ずしも上記記載通りに実施できるとは限らない。しかしながらフランコフォニーに関する文章の仏文和訳とグループあるいは個人での発表が本授業の核となることに変わりはない。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で実施していきます。

授業方法(遠隔授業の場合)

課題の提出とそれに対する解説、さらにZoomを用いた授業を組み合わせしていきます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

次回の授業のために配布したプリントは予め日本語に訳しておくこと(約1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題を提出後、解説をして理解度を深める。

教科書コメント

プリントは授業時に配布するか、Webclassにアップする。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

連絡は対面時かWebclassでおこないます。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360205101	科目ナンバリング	036A302
講義名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)		
副題	フランス映画概説		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 中央-401.通年 木曜日 1時限 対面授業		

授業概要

リュミエール兄弟による映画の発明から現代まで、フランス映画の歴史をたどる。受講者はフランス語ができるという利点があるので、フランス語の文献を活用して授業内容の深化を図る。

到達目標

単にフランス映画の歴史的概観を体得するのみならず、映画とは何か、表象芸術とは何かという根源的な問題についても思考しうる哲学的、歴史的基礎を身につけてもらいたい。

授業内容

実施回	内容
第1回	リュミエール兄弟
第2回	ジョルジュ・メリエス
第3回	パテとゴーモン
第4回	フィルム・ダール
第5回	マックス・ランデル
第6回	エミール・コール
第7回	アリス・ギイ
第8回	ルイ・フィヤード
第9回	アベル・ガンズ
第10回	アヴァンギャルド映画
第11回	詩的レアリスム
第12回	ルネ・クレール
第13回	ジャック・プレヴェール
第14回	理解度の確認
第15回	自主研究(予備日)
第16回	ジャン・ヴィゴ
第17回	ジャン・ルノワール
第18回	マルセル・カルネ
第19回	ジャック・ベッケル
第20回	ジャン=ピエール・メルヴィル
第21回	ロベール・ブレッソン
第22回	ジャック・タチ
第23回	ジャン・コクトー
第24回	アレクサンドル・アストリュック
第25回	クロード・シャブロール
第26回	フランソワ・トリュフォー
第27回	ジャン=リュック・ゴダール
第28回	エリック・ロメール
第29回	理解度の確認
第30回	自主研究(予備日)

授業計画コメント

以上はあくまでも平常時の計画である。2021年度も、2020年度と同じく、コロナ禍の状況によって、計画や内容が変化させられる可能性があることに留意されたい。対面授業にするか遠隔授業にするかの判断もその状況による。

授業方法(対面授業の場合)

講義形式による

授業方法(遠隔授業の場合)

WebClassとZoomを用いる

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に言及された映画作家、スタッフ、映画作品、映画専門用語などについて、各種辞書や百科事典、映画事典などを丹念に引きながら確認し、理解を深めること。また、授業中に配布され解説されたフランス語文献を復習して、自分でもきちんと意味が分かるようにしておくこと(約1時間半)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

教科書コメント

とくにない。

参考文献コメント

教室で直接指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360206101	科目ナンバリング	036A303
講義名	フランス語圏文化講義(広域文化)		
副題	シュルレアリスムと20世紀フランス		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	進藤 久乃		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

シュルレアリスムは、20世紀最大の文学・芸術運動である。アンドレ・ブルトン、ルイ・アラゴン、ロベール・デスノスなどが多くの詩や散文作品を残し、マックス・エルンスト、ルネ・マグリットの絵画作品も広く知られている。一方、シュルレアリストらの活動は、狭義の文学・芸術作品の制作にとどまるものではなく、自身の生を巻き込み、現実に影響を与えようとするものでもあった。そのため彼らは、社会的な事件に反応して多くのビラや宣言を発表し、大小さまざまな論争を引き起こした。本講義では、シュルレアリスムのビラ、公開書簡、宣言などをその背景を説明しながら紹介する。彼らが芸術的な問いをいかに現実の諸問題と結びつけようとしたかを知ることで、シュルレアリスムの作品をより多様な視点から考察することができるだろう。

到達目標

- ・シュルレアリスムとその周辺の詩人・芸術家について理解を深める。
- ・シュルレアリスムを切り口として、20世紀フランス文学・芸術史の背景と問題点を理解する。
- ・興味のある作家や芸術家の作品について、複数の視点から分析することができるようになる。
- ・論文執筆の形式を守りながら、レポートを作成することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	シュルレアリスム概論 第二次世界大戦まで
第3回	反抗の時代(1) ダダとの決別から「死骸」(1924)まで
第4回	反抗の時代(2) 『シュルレアリスム革命』誌(1924-1929)
第5回	三面記事とスキャンダル 「恋に手をだすな」(1927)他
第6回	非西欧文化への眼差し 「植民地博へ行くな」(1931)
第7回	共産党への接近とグループ内の対立
第8回	『シュルレアリスム第二宣言』(1929)とバタイユらによる「死骸」(1930)
第9回	アラゴン事件と「詩の貧困」(1932)
第10回	ファシズムへの反抗と芸術の独立性(1) コントル・アタック(1935)
第11回	ファシズムへの反抗と芸術の独立性(2) 「独立革命芸術のために」(1938)
第12回	第二次世界大戦(1) アメリカ亡命と『VVV』(1942-)
第13回	第二次世界大戦(2) ナチス占領下フランスのシュルレアリスム「ペンを持つ手」の活動(1941-)
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り
第16回	第2学期のガイダンス
第17回	シュルレアリスム概論 第二次世界大戦以降1960年代まで
第18回	第二次世界大戦直後の状況 レジスタンスと粛清
第19回	第二次世界大戦直後の論争 バンジャマン・ペレ「詩人の不名誉」(1945)
第20回	アルベール・カミュとの論争
第21回	ジャン＝ポール・サルトルのシュルレアリスム批判
第22回	ランボー贋作事件 ブルトン「現行犯」(1949)
第23回	世界市民への合流 「ガリー・デイヴィスへの手紙」(1949)
第24回	カルージュ事件(1951)
第25回	社会主義的リアリズム批判と抽象・具象の議論
第26回	全体主義批判
第27回	アルジェリア戦争と「121人宣言」(1960)
第28回	予備日・ディスカッション
第29回	レポートの書き方の注意
第30回	まとめ

授業計画コメント

上記の予定は目安であり、履修者の興味や関心に応じて計画を変更することがある。

授業方法(対面授業の場合)

スライドを使って各項目の背景について説明し、プリントでテキストを紹介する。フランス語のテキストには日本語訳をつける。

授業方法(遠隔授業の場合)

主にWebClassを使用したオンデマンド型授業を行う。音声付きスライド(背景の説明)、プリント(テキストと日本語訳)をWebClassにアップロードする。出欠はコメントペーパーでとる。必要に応じてzoomによる同時配信型授業を行うことも考慮する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業中に配布した資料を見直し、興味のある事項については紹介した参考文献を読んでみる(1時間以上)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	遠隔の場合はレポート
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	35 %	第2学期のレポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	コメントペーパー、授業への参加など
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

履修者からのコメントペーパーの内容を授業に反映させる。

教科書コメント

プリントを配布する。

参考文献

Tracts surréalistes et déclarations collectives : tome 1, José Pierre (éd.), Le terrain vague, 1980

Tracts surréalistes et déclarations collectives : tome 2, José Pierre (éd.), Le terrain vague, 1982

シュルレアリスムの資料:シュルレアリスム読本4,思潮社,1981

シュルレアリスムの20年,ジャン＝ルイ・ベドゥアン著,三好郁朗訳,法政大学出版局,1970

参考文献コメント

上記の参考文献は、授業内で扱う予定のシュルレアリスムのテキストとその日本語訳が収録されている書籍である。(絶版のものが多いため必ずしも購入する必要はない。ISBNなし。)各回の参考文献については、授業内で紹介する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360207101	科目ナンバリング	036A304
講義名	フランス語圏文化講義(文学・思想)		
副題	ベケットと20世紀文学・思想		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	清水 さやか		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

サミュエル・ベケット(1906-1989)の作品を足がかりに、20世紀文学・思想の流れを概観する。まずベケットの主要な作品(小説、戯曲、映像作品など)を読み、そのなかに見られるいくつかの問題系(主体、言語、身体、近代性、人間性/動物性など)を分析する。そしてそれらを考えるのに適した他のフランス語文学作品や思想書、あるいはベケットについての評論を併せて読み、比較検討することで、20世紀の人文学においてどのような視点や関心が生まれ、どのような試みや探求がなされてきたのかを考察する。

到達目標

(1) ベケットやその周辺作家を20世紀フランス語文学・思想の流れの中に位置づけたうえで、各作品の意義や面白さを理解できるようになる。(2) 文学作品を分析的に読解し、その内容を自分の言葉で論理的に説明する力を養う。(3) 人文学で問題にされてきたことを自らの生、もしくは現代の問題に引きつけて考えることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: サミュエル・ベケットという作家について
第2回	小説『マロウン死す』と小説の革新
第3回	ベケットとヌーヴォー・ロマン(新しい小説)
第4回	『マロウン死す』を読む(1)
第5回	『マロウン死す』を読む(2)
第6回	『マロウン死す』を読む(3)
第7回	20世紀文学におけるグロテスクな身体(1)
第8回	20世紀文学におけるグロテスクな身体(2)
第9回	20世紀文学におけるグロテスクな身体(3)
第10回	20世紀文学におけるグロテスクな身体(4)
第11回	モダニズムとフランス文学: 「近代」とは何か(1)
第12回	モダニズムとフランス文学: 「近代」とは何か(2)
第13回	モダニズムとフランス文学: 「近代」とは何か(3)
第14回	『名づけられないもの』における「私」の探求(1)
第15回	『名づけられないもの』における「私」の探求(2)
第16回	2学期のイントロダクション: ベケットの戯曲
第17回	戯曲『ゴドーを待ちながら』を読む(1)
第18回	戯曲『ゴドーを待ちながら』を読む(2)
第19回	戯曲『ゴドーを待ちながら』を読む(3)
第20回	戯曲『ゴドーを待ちながら』を読む(4)
第21回	戯曲『クラブの最後の録音』を読む(1)
第22回	戯曲『クラブの最後の録音』を読む(2)
第23回	プルーストとベケットの比較(1)
第24回	プルーストとベケットの比較(2)
第25回	周辺作家を読む(1)
第26回	周辺作家を読む(2)
第27回	周辺作家を読む(3)
第28回	周辺作家を読む(4)
第29回	20世紀文学と批評
第30回	まとめ

授業計画コメント

授業の展開や受講者の関心・理解度に応じて、実施回ごとに予定されているテーマや扱う作品が変更になる可能性がある。

授業方法(対面授業の場合)

講義。

授業方法(遠隔授業の場合)

WebClass を利用したオンデマンド型授業(授業音声や資料などを配信。毎回の課題提出を求める)。授業音声を用いた講義となるが、受講者のコメントを紹介する時間も毎回設ける予定。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

その都度配布する資料をよく読み、毎回指示される課題(コメント)を提出すること。できれば授業で扱う作品の邦訳書を事前に読んでおくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	各授業回の課題提出が出席代わりとなる。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは、授業で扱った作品の意義を理解したうえで自分が関心を持てる点を見つけ、その関心に沿って自分なりに、かつ適切な方法で分析的・説得的に作品を論じることができかが評価のポイントとなる。詳しくは時期が近づいたら指示する。/平常点は、課題の提出状況や、課題の内容にみられる積極性・熱意が主な評価のポイントとなる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題として提出されたコメントの一部は授業で紹介する。

教科書

ゴドーを待ちながら:白水Uブックス,サミュエル・ベケット (安堂信也、高橋 康也訳),白水社,2013,978-4560071830

教科書コメント

教科書は後期に読む予定なので、その時期までに入手しておくこと。ただし、『ゴドーを待ちながら』の他の翻訳(たとえば『新訳ベケット戯曲全集1ゴドーを待ちながら/エンドゲーム』岡室美奈子訳、白水社、2018年など)、あるいはフランス語ないし英語の原典をすでに持っている場合は新たに購入する必要はない。詳しくは授業で説明する。

参考文献コメント

参考文献については、テーマごとに適宜指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360208101	科目ナンバリング	036A401
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A		
副題	フランス語圏のニュース記事を訳す		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	前山 悠		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 北1-306.通年 水曜日 2時限 対面授業		

授業概要

フランス語圏においてその週に話題となったニュースを取り上げ、それに関する新聞・雑誌・インターネット記事を翻訳する。政治・社会問題のみならず、文学・音楽・映画・ファッション・グルメなど、多岐にわたるジャンルを扱う。

到達目標

歴史的・文化的背景にもとづきながらフランス語圏における最新のトピックを読み解き、厳密な文法的根拠をもってフランス語文を明瞭な訳文に移しかえる力を養う。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	医療関連(Covid-19など)
第3回	医療関連(続き)
第4回	グルメ関連(Taste of Parisなど)
第5回	グルメ関連(続き)
第6回	映画関連(カンヌ国際映画祭など)
第7回	映画関連(続き)
第8回	音楽関連(Fête de la musiqueなど)
第9回	音楽関連(続き)
第10回	政治・経済関連
第11回	政治・経済関連(続き)
第12回	演劇関連(アヴィニオン演劇祭など)
第13回	演劇関連(続き)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	前期学習内容の確認
第17回	その週のニュース
第18回	〃
第19回	ファッション関連(パリ・コレなど)
第20回	ファッション関連(続き)
第21回	その週のニュース
第22回	〃
第23回	ワイン関連(ボジョレー・ヌーヴォーなど)
第24回	ワイン関連(続き)
第25回	文学関連(ゴンクール賞など)
第26回	文学関連(続き)
第27回	その週のニュース
第28回	〃
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

授業の題材は最新のニュースからその都度選び出すため、上記予定はあくまで目安である。可能な限り、リアル・タイムの情報を扱いたい。

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的に同時配信型とし、必要に応じてオンデマンド型の回を設ける。同時配信の場合はzoomを、オンデマンドの場合はWebClassを使用する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定されたフランス語記事の和訳および、必要となる予備知識の整理(1時間半程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートでは、各自選んだ最新のニュース記事を訳し、その内容に関する調査・論考を付すものとする。正確なフランス語理解、明瞭な訳文、綿密な調査、説得力のある論考が期待される。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントをつけて返却する。

教科書コメント

プリントを配布する。

履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。初回授業に必ず出席すること。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360208102	科目ナンバリング	036A401
講義名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	横川 晶子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語を日本語に翻訳するための知識と能力を習得するために、第1学期の授業では平易で短い文章を多く訳し、翻訳に関する基礎的な事柄を学習する。第2学期の授業では、フランスで実際に読まれている文章の日本語訳に取り組み、翻訳の実践を試みる。最新のフランス事情を反映するテキストを通じて、フランスのアクチュアリティに触れることも心がける。また翻訳研究に関して知っておくべき研究倫理についても学ぶ。

到達目標

フランス語と日本語の言語としての本質的な相違点を理解し、翻訳が内包する問題の分析を通じて、翻訳に必要な知識と技術を身につけることができる。また、単なる仏文和訳と翻訳はどう違うのか、良い訳文とはどのようなものか、文章の性格や目的によって訳がどう変わるのかなどを認識することで、実践的な翻訳の能力を高めることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方についての説明
第2回	人称代名詞
第3回	固有名詞
第4回	前置詞(句)
第5回	接続詞(句)
第6回	関係代名詞
第7回	時制
第8回	会話体の文章
第9回	説明の文章
第10回	日記
第11回	手紙もしくはメールの文章
第12回	平易な小説(1) 文体
第13回	平易な小説(2) 描写
第14回	理解度の確認とまとめ
第15回	到達度確認
第16回	第1学期レポートについて確認及び解説
第17回	料理のレシピ(1) 語彙
第18回	料理のレシピ(2) 文体
第19回	雑誌等の文章(1) ジャンル
第20回	雑誌等の文章(2) 文体
第21回	新聞記事(1) 日本とフランスの新聞記事の相違点
第22回	新聞記事(2) 実践
第23回	字幕作成(1) 字幕制作の方法
第24回	字幕作成(2) 実践
第25回	現代小説(1) 文体
第26回	現代小説(2) 人称及び時制
第27回	現代小説(3) 描写及び叙述
第28回	リーディング・レジユメの作成の仕方
第29回	理解度の確認とまとめ
第30回	到達度確認

授業方法(対面授業の場合)

授業内容に沿ったフランス語のテキストを毎回配布し、訳の担当者を決めます。担当者は次の授業の前に訳文を作成してメールで提出します。次の授業では講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討するとともに、担当者や授業参加者の意見やコメントを求めます。

授業方法(遠隔授業の場合)

オンデマンド型授業をおこないます。WebClassを使用して教材(講義文書及びフランス語テキスト)を配信し、訳の担当者を決めます。担当者は次の授業の前に訳文を作成してWebClassで提出します。次の授業では講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

課題の訳を担当する学生は締切日までに訳文を作成してメールで提出してください。担当でない学生も事前に訳文の作成を試みてください。(1時間~2時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、平常点(授業内の課題による訳文提出)及びレポート(学期末に実施)により総合的に評価します。テキストの内容を正確に把握し、不明点を調査し、的確な日本語で訳文を作成しているかどうかを評価のポイントとします。また、指定された期限内に訳文を提出することも重視します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常の課題については毎回の授業で解説を行いコメントを述べます。第1学期のレポートについては、第2学期の初回授業で解説し、適宜コメントを述べます。

教科書コメント

毎回の授業でプリントを配布します。

参考文献コメント

必要に応じて教室で指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修希望者が30名を超えた場合、初回の授業において以下の優先順位で受講できる学生を決めます。

1)「卒業翻訳」を選択した4年生。

2)「言語・翻訳」コース所属の4年生

3)「言語・翻訳」コース所属で、「卒業研究(卒業論文・卒業翻訳)」を予定している3年次の学生。

4)その他の3、4年生。

*履修希望者が30名を超えた場合、4)の中で抽選を行います。

その他

課題の訳文をメールにより提出してもらうので、メールの送受信が可能な環境を整えておいて下さい。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602081Z1	科目ナンバリング	036A401
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
副題	Dissertation et autres travaux		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 西1-212.通年 水曜日 3時限 対面授業		

授業概要

Ce cours a pour objet de préparer les étudiants à l'écriture de textes universitaires et notamment à la pratique de la dissertation, dont l'apprentissage progressif occupe à peu près l'intégralité du système d'enseignement secondaire en France ou, du moins, le faisait, quand la France avait encore un enseignement secondaire digne de ce nom.

到達目標

Il s'agira donc d'assimiler, en un an seulement, des exercices avec lesquels les collégiens et lycéens de France avaient naguère six ans pour se familiariser. Ce labeur, sans doute un peu exigeant (et vraisemblablement mal récompensé) commencera par l'initiation au résumé-contraction de texte, que suivra la présentation technique du commentaire composé. Enfin, nous en viendrons à la dissertation proprement dite.

授業内容

実施回	内容
-----	----

- | | |
|------|---|
| 第1回 | Présentation : La conception française du travail écrit. |
| 第2回 | Le résumé et la contraction de texte : (1) principes généraux. |
| 第3回 | Le résumé et la contraction de texte : (2) travaux pratiques en classe. |
| 第4回 | Le résumé et la contraction de texte : (3) travaux pratiques en classe. |
| 第5回 | Le résumé et la contraction de texte : (4) travaux pratiques en classe. |
| 第6回 | Le résumé et la contraction de texte : (5) travaux pratiques en classe. |
| 第7回 | Le résumé et la contraction de texte : (6) première évaluation. |
| 第8回 | Le commentaire composé : (1) principe généraux de l'explication de texte. |
| 第9回 | Le commentaire composé : (2) explication de texte, travaux pratiques en classe. |
| 第10回 | Le commentaire composé : (3) explication de texte, travaux pratiques en classe. |
| 第11回 | Le commentaire composé ; (4) Etablissement d'un plan de commentaire. |
| 第12回 | Le commentaire composé : (5) Explication de texte et établissement d'un plan de commentaire. Travaux pratiques en classe. |
| 第13回 | Le commentaire composé : (6) Explication de texte et établissement d'un plan de commentaire. Travaux pratiques en classe. |
| 第14回 | Le commentaire composé : (7) Explication de texte et établissement d'un plan de commentaire. Travaux pratiques en classe. |
| 第15回 | Bilan du premier semestre. |
| 第16回 | La dissertation : (1) présentation générale. |
| 第17回 | La dissertation : (2) Comprendre le sujet. |
| 第18回 | La dissertation : (3) Chercher des idées, chercher des exemples. |
| 第19回 | La dissertation : (4) Etablir un plan. |
| 第20回 | La dissertation : (5) Etablir un plan. Travaux pratiques en classe. |
| 第21回 | La dissertation : (6) Etablir un plan. Travaux pratiques en classe. |
| 第22回 | La dissertation : (7) Etablir un plan. Travaux pratiques en classe. |
| 第23回 | La dissertation : (8) Etablir un plan. Travaux pratiques en classe. |
| 第24回 | La dissertation : (9) Ecrire une dissertation. |
| 第25回 | La dissertation : (10) Travaux pratiques en classe. |
| 第26回 | La dissertation : (11) Travaux pratiques en classe. |
| 第27回 | La dissertation : (12) Travaux pratiques en classe. |
| 第28回 | La dissertation : (13) Travaux pratiques en classe. |
| 第29回 | La dissertation : (14) Travaux pratiques en classe. |
| 第30回 | Bilan de l'année |

授業方法(対面授業の場合)

Nous réfléchirons ensemble sur les différents sujets proposés. Les travaux écrits ont leur temporalité propre, dans laquelle il convient de ménager des moments de rédaction, suivis d'une présentation au reste de la classe.

授業方法(遠隔授業の場合)

La méthode n'est pas fondamentalement différente pour les cours en ligne : elle suppose seulement une plus grande dextérité digitale et de savoir taper à la machine !

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Je demanderai aux étudiants qui suivent le cours de mettre en forme les notes de la séance précédente : soit d'établir un plan à partir des idées conçues ensemble, soit de rédiger en totalité ou en partie le plan de dissertation préparé en classe.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	Principalement le travail effectué en classe.
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Je n'ai rien de spécial à ajouter dans cette rubrique mais il est apparemment obligatoire d'y inscrire quelque chose : voilà donc qui est fait !

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que tous les travaux que je demande aux étudiants feront l'objet d'une correction et d'une explication.

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602081Z2	科目ナンバリング	036A401
講義名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
副題	発話行為について考える		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の短い文章または論文を読むことで、書き言葉のフランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、主として語用論的な視点から日常を取り巻く言語の考察を深めたい。

到達目標

書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日常を取り巻く言語について(1)
第3回	日常を取り巻く言語について(2)
第4回	日常を取り巻く言語について(3)
第5回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第6回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第7回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第8回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第9回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第10回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括
第15回	予備日
第16回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(1)
第17回	日常を取り巻く言語について日本語とフランス語の比較(2)
第18回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(1)
第19回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(2)
第20回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(3)
第21回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(4)
第22回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(5)
第23回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(6)
第24回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(7)
第25回	日常を取り巻く言語に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括
第30回	予備日

授業方法(対面授業の場合)

フランス語についての文章を読み、理解を深めながら議論していく演習方式

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを使ったオンライン授業(対面と同じ内容)とSlackを使った資料配布などオンデマンド方式を併用する

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

担当箇所を調べるだけでなく、全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

教科書コメント

授業で講読する論文は、授業中に指示する。

参考文献

- Quand dire, c'est faire, J.L. Austin, Éditions du Seuil, 1970
- Les actes de langage dans le discours, C. Kerbrat-Orecchioni, Armand Colin, 2008
- Politeness, Brown & Levinson, Cambridge, 1987
- Langage et discours, P. Charaudeau, Hachette université, 1983
- Les phrases sans texte, D. Maingueneau, Armand Colin, 2012

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360209101	科目ナンバリング	036A402
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A		
副題	舞踊批評を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	上杉 未央		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 遠隔授業		

授業概要

20世紀のバレエ・舞踊批評のフランス語のテキストを輪読し、舞踊の世界における「伝統」と「前衛」について考える。春学期は、19世紀半ば以降のフランスにおける舞踊の歴史とその批評について概観した後(第2回、第3回)、バレエリュス(ロシアバレエ団)を扱う(第4～21回)。『ペトルーシュカ』、『薔薇の精』(1911)、『牧神の午後』(1912)、『春の祭典』(1913)の批評を題材とし、批評家がいかなる点に伝統の継承を認め、どのような点に革新を認めたのか。またその革新は肯定的に受け止められたのか、否定的であったのか。否定的であるならばなぜそうなったのか。同じ作品を扱う批評を複数取り上げながら、反応の総体を捉える。秋学期後半は、モーリス・ベジャール振付の『春の祭典』(1959)、ピナ・バウシュ振付の『春の祭典』(1975)をめぐる批評を読む。バレエリュスの「前衛」が、後世にどのように引き継がれ、新たな革新が生み出されていったのか、これらの作品に対する反応を細かに見ながら紐解いていく。

到達目標

- ・舞踊の歴史についての知識を身につけ、叙述できる。
- ・フランス語のテキストを精確に読むことができる。
- ・批評テキストの読解を通じて、舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:授業の進め方、参考資料の紹介
第2回	ロマンティック・バレエ、クラシック・バレエとその批評(1)
第3回	ロマンティック・バレエ、クラシック・バレエとその批評(2)
第4回	バレエリュス(1) バレエリュスの活動の概要
第5回	バレエリュス(2) 『薔薇の精』
第6回	バレエリュス(3) 『ペトルーシュカ』
第7回	バレエリュス(4) 『ペトルーシュカ』
第8回	バレエリュス(5) 『牧神の午後』
第9回	バレエリュス(6) 『牧神の午後』
第10回	バレエリュス(7) 『牧神の午後』
第11回	バレエリュス(8) 『牧神の午後』
第12回	バレエリュス(9) 『牧神の午後』
第13回	バレエリュス(10) 『春の祭典』
第14回	バレエリュス(11) 『春の祭典』
第15回	バレエリュス(12) 『春の祭典』
第16回	バレエリュス(13) 『春の祭典』
第17回	バレエリュス(14) 『春の祭典』
第18回	バレエリュス(15) 『春の祭典』
第19回	バレエリュス(16) 『春の祭典』
第20回	バレエリュス(17) 1920年代の作品
第21回	バレエリュス(18) 1920年代の作品
第22回	モーリス・ベジャール(1)
第23回	モーリス・ベジャール(2)
第24回	モーリス・ベジャール(3)
第25回	モーリス・ベジャール(4)
第26回	ピナ・バウシュ(1)
第27回	ピナ・バウシュ(2)
第28回	ピナ・バウシュ(3)
第29回	総括
第30回	学年末試験(授業時間内にテキストの和訳と論述の試験を行う)

授業方法(対面授業の場合)

フランス語のテキストを輪読する。題材となっている作品の映像を観る。

授業方法(遠隔授業の場合)

zoomを用い、同時双方向型でオンライン授業を行う。
フランス語のテキストを輪読する。題材となっている作品の映像を観る。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

- ・授業で講読するテキストの予習をしてくること(目安1時間)
- ・リアクションペーパーに記入すること(目安30分)
- ・1学期につき1~2回(履修者の人数による)、担当者を決め、訳読発表してもらう。(目安2-3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

- ・フランス語を精確に読み、解釈する力があること。
- ・舞踊の歴史を理解し、論述する力があること。
- ・授業中に学んだ、あるいは参考資料を得ることで身につけた知識を用いながら、舞台作品を分析することができるかどうか。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

webclassにてコメント、もしくは採点表という形でフィードバックを行う。

教科書

Etudes (1909-1924), Jacques Rivière, Gallimard, 1999, 2070746283

教科書コメント

講読するテキストは教員が用意し、webclassにアップロードする。

参考文献

- 踊る世紀, 鈴木晶, 新書館, 1994, 4403230385
皇室劇場とバレエ・リュス—マリウス・プティパからミハイル・フォーキンへ, 平野恵美子, 未知谷, 2020, 4896426150
バレエとダンスの歴史—欧米劇場舞踊史, 鈴木晶(編), 平凡社, 2012, 4582125239

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。
遠隔授業が継続される場合はzoomに参加するに十分なWi-Fi環境が必要です。

その他

質問などは、web classのメッセージ機能もしくは教員のメールアドレスに連絡をください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360209102	科目ナンバリング	036A402
講義名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	彦江 智弘		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

本演習では、ロラン・バルトの写真論を起点に様々な写真理論を学ぶとともに、実際の写真作品をどのように分析し読み解くかを実践的に検討する。前期は主にアンリ・カルティエ＝ブレッソンなどのスナップ写真を取り上げ、後期にはナダールやアウグスト・ザンダーのポートレート写真を取り上げる予定。

到達目標

①写真理論を身につける。②写真を分析的に見ることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション①写真
第2回	スナップ写真とは何か①
第3回	スナップ写真とは何か②
第4回	バルトの写真論①
第5回	バルトの写真論②
第6回	作品分析
第7回	作品分析
第8回	作品分析
第9回	関連写真論①
第10回	作品分析
第11回	作品分析
第12回	関連写真論②
第13回	作品分析
第14回	作品分析
第15回	前期の振り返り
第16回	イントロダクション②映画
第17回	ポートレート写真とは何か①
第18回	ポートレート写真とは何か②
第19回	バルトの写真論③
第20回	バルトの映画論④
第21回	作品分析
第22回	作品分析
第23回	作品分析
第24回	関連写真理論①
第25回	作品分析
第26回	作品分析
第27回	関連写真理論②
第28回	作品分析
第29回	作品分析
第30回	後期の振り返り

授業方法(対面授業の場合)

演習形式でディスカッションを組み込んだ授業を行います。

授業方法(遠隔授業の場合)

webclassを活用して、資料を使った学習、課題、議論を中心に授業を進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で取り上げるテキストや作品を事前に自分で検討する。授業後には、授業での議論をふまえ自分なりの作品分析を深める。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

演習形式の授業であるため、授業への積極的な参加度を重視する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習形式の授業のため、授業内での参加者との議論の中でフィードバックは行う。

参考文献

明るい部屋, ロラン・バルト, みすず書房, 978-4622049050

ロラン・バルト映画論集, ロラン・バルト, 筑摩書房, 978-4480084644

まなごしのエクササイズ, ロズウェル・アンジェ, フィルムアート社, 978-4845912063

イメージのヴァナキュラー: 写真論講義 実例編, 前川 修, 東京大学出版会, 9784130101455

デジタル写真論: イメージの本性 理論編, 清水 穰, 東京大学出版会, 9784130802222

参考文献コメント

その他の参考文献は授業で適宜指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602091Z1	科目ナンバリング	036A402
講義名	◇フランス語圏文化演習(舞台・映像)		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	DE VOS, Patrick		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

この授業では、フランス、又フランス語圏で戦後以降の舞台芸術の軌跡を刻んだと思われる幾つかの作品を通して、演劇やダンスを通じた顕著な傾向を考えていく。そのなかでドラマより声の空間として舞台への重視、演出家を中心とする制作方法に対して劇団または集団組織の有効性、レパートリーよりパフォーマンスへのシフト、フィクションに対して事実・史実への指向性などを注目することができる。

特に視野に入れるのは政治性を強調するドキュメンタリー演劇の台頭である。また、いわゆるポストコロニアル状況におけるフランス語圏の周辺で作られる舞台芸術にも目配りをする。これらのトピックはフランス語による戯曲、演劇評論・理論を精読したり映像資料を分析したりすることによって扱う。

到達目標

1. ビデオで観られる、できるだけたくさんの作品に触れることによって、20世紀のフランス語による舞台芸術について抽象的な知識に止まらずに、ある程度の「体験」に基づく読みをする。
2. 各作品について、その歴史的な背景を確認すると共にその美学的、思想的、社会的な問いかけについて考えることを学ぶ。
3. 最近の舞台芸術研究ではビデオなどのアルカイブに頼って作品を観て論じる方法論の諸問題を考える。
4. 発表することによって、感心のある作品について資料収集し、分析を行い、それを想像的に整理した上で授業で他の学生とその結果の共有し議論することを学ぶ。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション。授業の内容や方法の説明。
第2回	ベケットの『Fin de partie』の試読, その1.
第3回	『Fin de partie』その2. この作品で何が語られているのか、あるいは語られていないのか。
第4回	巨匠の演出家Antoine Vitezの『Electre』を観る。
第5回	『Electre』その2.
第6回	演出と演技の修行の物語, Brigitte Jaquesの『Elvire/Jouvet』.
第7回	『Elvire Jouvet』その2.
第8回	Racine著『Bérénice』を演出するGrüberによる詩の展示, ことばの露出.
第9回	太陽劇団における集団創作、演出と観客。『1789』の場合.
第10回	『1789』その2.
第11回	演出家を除くTg Stanの『Les Antigones』(2001年).
第12回	『Les Antigones』その2.
第13回	登場人物に声(身体)を奪われたパフォーマー: Giselle Vienneの『Jerk』
第14回	『Jerk』その2.
第15回	身体によってパフォーマーが問う観客の眼差. Xavier Leroyの『self-portrait unfinished』
第16回	Sony Labou Tansiの政治演劇。『Machin la Hernie』の場合
第17回	ドキュメンタリー演劇の方法をもとめて。『Rwanda 94』をめぐって
第18回	『Rwanda 94』その2. ドキュメンタリーを観る
第19回	『Rwanda 94』を考える、その3.
第20回	太陽劇団の『Tambours sur la digue』における時代物と現在
第21回	太陽劇団の『Le dernier caravansérail』におけるドキュメントの性格.
第22回	太陽劇団の『Le dernier caravansérail』その2.
第23回	Milo Rauの『La reprise』における暴力とその復元のパフォーマンス
第24回	Milo Rauの『La reprise』その2
第25回	学生による発表
第26回	学生による発表
第27回	学生による発表
第28回	学生による発表
第29回	学生による発表
第30回	まとめ

授業計画コメント

以上のスケジュールでは場合によって扱う項目の順番などの変更がある可能性もある。

授業方法(対面授業の場合)

Le cours sera dispensé en français, de façon générale, et en ligne, avec la possibilité cependant de tenir certaines séances en présentiel.

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にフランス語で授業を行う。また、基本的に授業をオンラインで行うが、状況が許す限り、学生さんたちと相談した上で時々対面で行うこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

取り扱う作品によって、そのもとになる戯曲や、配った関連資料などの文章を読むことと、毎回の授業についてのコメント(質問も含む)を書いて提出することが要求される。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	発表

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

メールか、授業中で意見交換の形でフィードバックをする。

教科書コメント

教科書を使わないが、授業で資料の情報について指示する。

参考文献

- 演劇学の教科書,C.ピエ&C.トリオー,国書刊行会,2009
- ポストドラマ演劇,H.T.レーマン,同学社,2002
- Le Théâtre en France,Jacqueline de Jomaron,H. Champion,1996
- Fin de Partie,Samuel Beckett,Minuit,1957

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360210101	科目ナンバリング	036A403
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)A		
副題	写真の魅力を考える		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	内藤 真奈		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

写真家 Robert Doisneau による、日常的なフランス語で書かれた回想録を読む。読解を通して語学力を養うとともに、プロの写真家による絵画や映画など隣接する芸術ジャンルへの言及や、他の写真家の活動に対する評価に触れることにより、写真という芸術が持つ特徴や魅力について考察する。また、写真家の文章と写真作品を比較し、写真と言葉、各々の表現方法の違いを発見する。

到達目標

1. 日常的なフランス語で書かれた文章を正確に読解する能力を習得する。
2. フランス語の文章を、発音規則にしたがって音読する能力を身につける。
3. 読解内容を芸術作品(写真・絵画)との関連で理解し、解釈および発展的思考ができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 写真の歴史 作品紹介
第2回	A l'imparfait de l'objectif 講読：La photographie en bois (1)
第3回	A l'imparfait de l'objectif 講読：La photographie en bois (2)
第4回	A l'imparfait de l'objectif 講読：La photographie en bois (3)
第5回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Le cinéma (1)
第6回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Le cinéma (2)
第7回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Le cinéma (3)
第8回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Photogénie et beauté (1)
第9回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Photogénie et beauté (2)
第10回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Photogénie et beauté (3)
第11回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Les peintres (1)
第12回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Les peintres (2)
第13回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Les peintres (3)
第14回	第一学期のまとめ
第15回	到達度確認
第16回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Georges Braque
第17回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Fernand Léger
第18回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Pablo Picasso (1)
第19回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Pablo Picasso (2)
第20回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Constantin Brâncuși
第21回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Maurice Utrillo
第22回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Peintres naïfs et artistes bruts (1)
第23回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Peintres naïfs et artistes bruts (2)
第24回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Des noms - introduction
第25回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Des noms - Brassai
第26回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Des noms - Kertész, Willy Ronis
第27回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Des noms - Henri Cartier-Bresson
第28回	A l'imparfait de l'objectif 講読：Des noms - Edouard Boubat, le groupe
第29回	一年のまとめ
第30回	到達度確認

授業計画コメント

授業の進度・内容は、受講生の関心によって変更される可能性がある。

授業方法(対面授業の場合)

前期は一人一文ずつ順番に音読・訳読する輪番発表形式、後期は担当者による音読・訳文発表をグループワーク形式で行う。発

表の後、教員が質疑応答による文法事項の確認や解説をする。また、読解した内容、テーマについて、クイズや簡単なディスカッションの機会を設ける予定である。

講読する作品には実在の芸術家や作品の名が挙げられているので、インターネット等で調査して読解に役立てること。

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoom を用いて、上記と同様の内容を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

受講生全員が、授業で予定された箇所の単語を調べ内容を把握し、訳読の準備をする。(1時間～2時間)

予習内容を授業中に確認し、読解が不十分であった場合は、次回の読解に生かせるように文法事項を含めて復習する。(約1時間)

テキスト内の固有名詞はインターネットを使用して積極的に調べる。発表担当者は他の学生に説明できるよう準備する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	オンラインでレポート提出・返却を行う
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	Zoom を使用した同時配信授業を行う
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

前期・後期ともに訳読発表を行うことが単位取得の必須条件です。

必要な手続きを経ずに他人の文章を利用することは不正行為(盗用)となります。成績評価にも影響しますので、課題提出や発表の際は気をつけましょう。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳読発表については、授業中に講評を行う。

学期末レポートはコメントを付して返却する。

教科書

A l'imparfait de l'objectif, Robert Doisneau, BABEL, 1995, 2-7427-3182-2

参考文献

<パリ写真>の世紀, 今橋映子, 白水社, 2003, 4-560-03894-5

履修上の注意

履修者数に制限(30名)がありますので、初回授業に必ず出席し、履修希望の意思表示をしてください。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360210102	科目ナンバリング	036A403
講義名	フランス語圏文化演習(広域文化)B		
副題	ネルヴァルの『東方紀行』を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	畑 浩一郎		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

フランス・ロマン主義時代の作家ジェラール・ド・ネルヴァルが残した『東方紀行』(1851)を精読していく。19世紀前半のフランスでは、オリエンタリズムと呼ばれる中近東の国々が強い憧れと関心を掻き立てていた。ナポレオン・ボナパルトのエジプト遠征(1798-1801)をひとつの契機として、フランス人の眼差しは地中海を超え、はるかアフリカやアジアの大地に向けられるようになるのである。本授業では、ネルヴァルのテキストの読解を通じて、当時のフランス人が西洋とは異なる文化に触れた際のみずみずしい驚きを確認していく。

到達目標

- ・フランス・ロマン主義時代の旅行記の特徴を把握する。
- ・オリエンタリズムとはどのような概念なのかを理解する。
- ・ネルヴァルにとっての旅の意義を確認する。
- ・フランス語文献の読解力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	前期のガイダンス
第2回	ネルヴァルの生きた時代
第3回	フランス・ロマン派時代におけるオリエンタ旅行
第4回	オリエンタリズムをめぐる問題
第5回	「カイロの女たち」コプト式結婚式(1)
第6回	「カイロの女たち」コプト式結婚式(2)
第7回	「カイロの女たち」女奴隷たち(1)
第8回	「カイロの女たち」女奴隷たち(2)
第9回	「カイロの女たち」ハレム(1)
第10回	「カイロの女たち」ハレム(2)
第11回	「ドルーズ派とマロン派」レバノンの王子(1)
第12回	「ドルーズ派とマロン派」レバノンの王子(2)
第13回	「ドルーズ派とマロン派」レバノンの王子(3)
第14回	前期の理解度の確認
第15回	前期の到達度確認
第16回	後期ガイダンス
第17回	「ドルーズ派とマロン派」囚われの人(1)
第18回	「ドルーズ派とマロン派」囚われの人(2)
第19回	「ドルーズ派とマロン派」囚われの人(3)
第20回	「ドルーズ派とマロン派」アッカルたち、アンチ＝レバノン山脈(1)
第21回	「ドルーズ派とマロン派」アッカルたち、アンチ＝レバノン山脈(2)
第22回	「ラマダンの夜」スタンブールとペラ(1)
第23回	「ラマダンの夜」スタンブールとペラ(2)
第24回	「ラマダンの夜」スタンブールとペラ(3)
第25回	「ラマダンの夜」劇場と祭り(1)
第26回	「ラマダンの夜」劇場と祭り(2)
第27回	「ラマダンの夜」バイラム(1)
第28回	「ラマダンの夜」バイラム(2)
第29回	後期の理解度の確認
第30回	後期の到達度確認

授業計画コメント

授業計画については、受講者の関心のありかに応じて変更する可能性もある。

授業方法(対面授業の場合)

受講者によるテキスト読解とその発表、質疑応答と教員からのコメント。

授業方法(遠隔授業の場合)

対面授業の場合と同じ。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者以外も必ず事前に該当箇所を原文で読み、不明な点などを整理してくること (1 時間から2 時間)
授業後には指摘を受けた点を振り返り、必要に応じて、文献、インターネットなどで理解を深めておく (1 時間から2 時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分 (%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは受講者自身の考えが、自分の言葉で表現されているかを見る。
平常点は発表だけではなく、それ以外の形の授業への参加(質問、発言など)も考慮する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートは、コメントを付した上で返却する。

教科書

Voyage en Orient,Gérard de Nerval,folio classique,1998,2070403874

参考文献

異邦の香り ネルヴァル『東方紀行』論,野崎歆,講談社文芸文庫,2019,4065166764

履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360211101	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)A		
副題	マラルメの詩を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	村上 由美		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

19世紀末の詩人ステファヌ・マラルメの詩作品を詳しく読みすすめながら、その世界を味わう。ドマン版『マラルメ詩集』をテキストにして、比較的読みやすい詩編を扱う。フランス語による定型韻文詩を原語で読むために必要な韻律法(versification)の規則を解説しながらすすめていく。関連文献として、書簡、研究書(注釈)の抜粋をはじめ、マラルメが影響を受けた詩人たちの作品などもあわせて講読し、詩の解釈の仕方を身につける。

到達目標

フランス語で書かれたテキストを読解し、その内容を理解することができる。
作品の正確な読解につとめるとともに、作品の解釈をおこなうことができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(1)フランス近代詩の歴史、およびフランス語定型詩の韻律法について
第2回	イントロダクション(2)ステファヌ・マラルメの生涯と作品
第3回	マラルメによる初期詩編(1)
第4回	関連文献講読
第5回	マラルメによる初期詩編(2)
第6回	関連文献講読
第7回	マラルメによる初期詩編(3)
第8回	関連文献講読
第9回	マラルメによる初期詩編(4)
第10回	関連文献講読
第11回	マラルメによる初期詩編(5)
第12回	関連文献講読
第13回	マラルメによる初期詩編(6)
第14回	関連文献講読
第15回	前半のまとめ 到達度確認
第16回	第2学期授業の説明、『半獣神の午後』について
第17回	『半獣神の午後』関連文献講読(1)
第18回	『半獣神の午後』関連文献講読(2)
第19回	『半獣神の午後』(1)
第20回	『半獣神の午後』(2)
第21回	『半獣神の午後』(3)
第22回	『半獣神の午後』(4)
第23回	『半獣神の午後』(5)
第24回	『半獣神の午後』(6)
第25回	関連文献講読
第26回	マラルメによる初期詩編(7)
第27回	関連文献講読
第28回	マラルメによる初期詩編(8)
第29回	関連文献講読
第30回	授業の総括、到達度確認

授業計画コメント

授業の進捗や内容は、学生の興味や理解度に応じて変更する場合がある。

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

授業は演習形式で、学生による訳読と解釈の発表(提出)によってすすめていく。基本的に授業はリアルタイム配信でおこない、双方向ですすめる。授業を補うかたちでオンデマンド配信もおこなう。リアルタイムでの参加が難しい方も、録画を活用し受講できるように配慮する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

講読するテキストについては、授業前に該当箇所を読み、わからない単語などを調べておくこと。担当者は訳文を発表(提出)す

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点70%(出席、授業参加度、とくに課題提出を重視する)。レポート30%。
上記の割合はあくまで目安である。受講者の数などによって変更することがある。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳文の発表については毎回授業中にコメント・解説をおこなう。レポートは、コメントをつけて返却する。

教科書

Poésies, préface d'Yves Bonnefoy, éd. par Bertrand Marchal: Coll.《Poésie》,Stéphane Mallarmé,Gallimard,1992,9782070327164

教科書コメント

教材については、各学期第一回目に配布する。

参考文献コメント

授業中に適宜紹介する。

履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)
第一回目の授業に出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360211102	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)B		
副題	ジャン=ジャック・ルソーの『孤独な散歩者の夢』を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	土橋 友梨子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

フランス18世紀の作家であるジャン=ジャック・ルソーの最晩年の作品である『孤独な散歩者の夢』の中からいくつかのエピソードを読んでいきます。
『夢』の読解を通して、ルソーの思想とともに、当時の文化的背景や同時代の作家についても学んでいきます。
ルソーのテキストは難解ですが、丁寧に細かく読み解いていきます。また、時々ですが、学生同士で話し合って訳を作っていただく機会も設けたいと思っています。

到達目標

- ・フランス語を正しく発音したり、文章を正確に読む力を身につけます。
- ・ルソーの作品をはじめ、18世紀フランス文学についての理解を深めます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:ジャン=ジャック・ルソーについて
第2回	『孤独な散歩者の夢』「第一の散歩」(1)
第3回	『孤独な散歩者の夢』「第一の散歩」(2)
第4回	『孤独な散歩者の夢』「第一の散歩」(3)
第5回	『孤独な散歩者の夢』「第一の散歩」(4)
第6回	『孤独な散歩者の夢』「第一の散歩」(5)
第7回	『孤独な散歩者の夢』「第一の散歩」(6)
第8回	『孤独な散歩者の夢』「第二の散歩」(1)
第9回	『孤独な散歩者の夢』「第二の散歩」(2)
第10回	『孤独な散歩者の夢』「第二の散歩」(3)
第11回	『孤独な散歩者の夢』「第二の散歩」(4)
第12回	『孤独な散歩者の夢』「第二の散歩」(5)
第13回	『孤独な散歩者の夢』「第二の散歩」(6)
第14回	まとめ
第15回	到達度の確認
第16回	『孤独な散歩者の夢』「第三の散歩」(1)
第17回	『孤独な散歩者の夢』「第三の散歩」(2)
第18回	『孤独な散歩者の夢』「第三の散歩」(3)
第19回	『孤独な散歩者の夢』「第三の散歩」(4)
第20回	『孤独な散歩者の夢』「第三の散歩」(5)
第21回	『孤独な散歩者の夢』「第三の散歩」(6)
第22回	『孤独な散歩者の夢』「第五の散歩」(1)
第23回	『孤独な散歩者の夢』「第五の散歩」(2)
第24回	『孤独な散歩者の夢』「第五の散歩」(3)
第25回	『孤独な散歩者の夢』「第五の散歩」(4)
第26回	『孤独な散歩者の夢』「第五の散歩」(5)
第27回	『孤独な散歩者の夢』「第五の散歩」(6)
第28回	『孤独な散歩者の夢』「第五の散歩」(7)
第29回	まとめ
第30回	到達度の確認

授業計画コメント

授業の進捗や内容は、学生の興味や理解度に応じて変更する場合があります。

授業方法(対面授業の場合)

演習形式で輪読を行います。
訳を作る際は、代名詞が何を指しているのか等、細かく読んでください。

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型授業(zoom利用)を行います。
訳を作る際は、代名詞が何を指しているのか等、細かく読んでください。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

輪読なので、毎回訳の担当を決めます。訳の発表に備えて、担当者は訳文を作ってください(約1時間)
また、履修者のみなさんは担当ではない箇所も、授業前にテキストの該当箇所を読み、わからない単語などを調べておくとよいでしょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳文の発表については毎回授業中にコメント・解説をします。

教科書コメント

プリントを配布します。

参考文献コメント

参考文献については授業中に指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。
第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360211103	科目ナンバリング	036A404
講義名	フランス語圏文化演習(文学・思想)C		
副題	バタイユの思想を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	福島 勲		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 5時限 遠隔授業		

授業概要

本授業では、ジョルジュ・バタイユの思想・批評的な文章を手がかりにして、人間や芸術、文学の意味について考察する。具体的には、『ドキュマン』、『内的体験』、『呪われた部分』、『エロティシズム』、『ラスコーの壁画』、『文学と悪』等の抜粋(フランス語原文)を輪読をしながら、その内容について参加者とともにディスカッションを行う。

到達目標

- ・フランス語で書かれたテキストを読解し、その内容を理解することができる。
- ・人間や芸術の役割について、文化的、社会的、哲学的な視点から考えることができる。
- ・科学技術や経済効率とは別の観点から人間や文化を構想することができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション: バタイユとは?
第2回	イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(1)
第3回	イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(2)
第4回	イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(3)
第5回	イデアリズム批判: 『ドキュマン』を読む(4)
第6回	無為と共同体: 『内的体験』を読む(1)
第7回	無為と共同体: 『内的体験』を読む(2)
第8回	無為と共同体: 『内的体験』を読む(3)
第9回	無為と共同体: 『内的体験』を読む(4)
第10回	無為と共同体: 『内的体験』を読む(5)
第11回	消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(1)
第12回	消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(2)
第13回	消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(3)
第14回	消尽する人間: 『呪われた部分』を読む(4)
第15回	前半のまとめ&到達度確認
第16回	性と死: 『エロティシズム』を読む(1)
第17回	性と死: 『エロティシズム』を読む(2)
第18回	性と死: 『エロティシズム』を読む(3)
第19回	性と死: 『エロティシズム』を読む(4)
第20回	性と死: 『エロティシズム』を読む(5)
第21回	芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(1)
第22回	芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(2)
第23回	芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(3)
第24回	芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(4)
第25回	芸術と人間: 『ラスコーの壁画』を読む(5)
第26回	文学と至高性: 『文学と悪』を読む(1)
第27回	文学と至高性: 『文学と悪』を読む(2)
第28回	文学と至高性: 『文学と悪』を読む(3)
第29回	文学と至高性: 『文学と悪』を読む(4)
第30回	一年のまとめ&到達度確認

授業計画コメント

授業内容で提示したテキストはあくまでサンプルである。進度は、参加者の興味・理解度に応じて柔軟に変化する。

授業方法(対面授業の場合)

演習方式

授業方法(遠隔授業の場合)

Zoomを用いたリアルタイム・オンラインもしくはオンデマンド方式(いずれの場合も良好なインターネット環境、回線、機器を準備した上で履修すること)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回の予習・復習には90分～120分かかると想定される。また、発表担当回にはさらに60分程度が必要となる。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポートは学生の理解度に応じて各学期1～3回課す。平常点においては、積極的参加および発表内容を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各レポートにはコメントをつける。

教科書コメント

適宜、配布する。

参考文献コメント

適宜、指示する。

履修上の注意

フランス語テキストの読解が授業の柱となるので、フランス語未履修者は受講できない。

履修者数制限あり(30名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z1	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	アンドレ・ジッド研究		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 仏文院生室.通年 木曜日 3時限 対面授業		

授業概要

アンドレ・ジッドが自らのアルジェリア旅行の体験を織り込んで書いた『背徳者 L'Immoraliste』(1902)を読む。旅行先の北アフリカで重病に倒れたあと、九死に一生を得て回復した主人公が、強烈な太陽の下ではじめて生命の歓喜に目覚め、既成の道徳や観念を捨ててひたすら肉体の感覚に生きる「背徳者」となる姿を描くこの作品を通して、ジッドの思想と文学について考えていきたい。

到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析してそれを説得的に他者に伝えることができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	作家および作品についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第15回	まとめ
第16回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(24)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(25)
第29回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(26)
第30回	総括

授業計画コメント

詳しい授業計画は初回授業時に配布する。

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

同時配信型(Zoomを使用)

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

教科書

L'Immoraliste: folio, Gide, Gallimard, 9782070362295

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z2	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	『パリの憂鬱』を読む 2		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 啓二		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

昨年度に引き続き、ボードレールの散文詩集『パリの憂鬱』の様々な詩篇を読みながら、この詩集、あるいは、「散文詩」という19世紀に誕生した新しい文学ジャンルそのものが含み持つ、複数の射程(美学的、宗教的、政治的射程)を考察する。昨年度の授業では、ボードレールの散文詩を、「表象不可能な現実(界)の表象」を企図する、終わりなき営為の所産としてとらえるに至った。

今年度の授業では、この営為を、19世紀中庸における、美学、宗教、政治の根源的変容(写真、汎神論、共和主義)という、歴史的な文脈の中で、より具体的に検討していく。

授業は、理論的考察と詩編の読解という二つの部分からなる。

今年度、理論的考察の柱とするのは、2000年代初めに、トゥルーズ大学を中心に活動を始めた、Philippe Ortel, Arnaud Rykner, Stéphane Lojkineらの論文である。

なお、下にあげる各回の授業内容は、一年間でとりあげる内容を大まかに列挙したものである。実際の授業においては、それぞれのテーマをとりあげる順序を、変更する可能性がある。

到達目標

ボードレールの散文詩が切り開いた地平がどのようなものであったかを、各自の関心に即して把握できるようになること

授業内容

実施回	内容
第1回	1学期全体についての説明
第2回	散文詩と、19世紀中庸の美学的変容(写真と文学)1
第3回	散文詩と、19世紀中庸の美学的変容(写真と文学)2
第4回	散文詩と、19世紀中庸の美学的変容(写真と文学)3
第5回	散文詩と、19世紀中庸の美学的変容(写真と文学)4
第6回	学生による発表
第7回	19世紀中庸の宗教的変容(汎神論と文学)1
第8回	19世紀中庸の宗教的変容(汎神論と文学)2
第9回	19世紀中庸の宗教的変容(汎神論と文学)3
第10回	19世紀中庸の宗教的変容(汎神論と文学)4
第11回	学生による発表
第12回	中間的総括1
第13回	中間的総括2
第14回	学生による発表
第15回	振り返り、到達度確認、等
第16回	2学期全体についての説明
第17回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)1
第18回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)2
第19回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)3
第20回	散文詩と、19世紀中庸の政治的変容(共和主義と文学)4
第21回	学生による発表
第22回	散文詩篇の政治的読解1
第23回	散文詩篇の政治的読解2
第24回	散文詩篇の政治的読解3
第25回	散文詩篇の政治的読解4
第26回	学生による発表
第27回	授業全体の総括1
第28回	授業全体の総括2
第29回	学生による発表
第30回	振り返り、到達度確認、等

授業方法(対面授業の場合)

(本授業は、遠隔授業を基本とする。以下に記す、遠隔授業の方法を参照のこと)

授業方法(遠隔授業の場合)

ZOOMを用いて行う。授業では、何回か続けて鈴木が特定のテーマに関する講義を行ったあと、参加している学生一人一人から、講義の内容についてのコメントを述べてもらう。コメントは、学生各々の研究と関連づけることが望ましい。また、各回の授業の中でも、随時、コメントを求めることがある。各回の授業への積極的な参加が求められる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

各回に講読を予定しているテキストや、WebClass上で公開する日本語によるレジюмеなどは、事前に必ず読んでおくこと。フランス語テキストの事前の準備に際しては、仏和辞典だけでなく、仏仏辞典(Grand Robert, Grand Larousse, TLFなど)にもあたること。なお、第一回授業で、辞書についての簡単な説明も行う。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に、発表に対するコメントの形で行う

教科書

Le Spleen de Paris: Le livre de poche "classiques", Baudelaire, Le Livre de Poche, 2003

教科書コメント

Le Livre de Poche版がどうしても入手できない場合は、他の版を用いても構わない

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U3602111Z3	科目ナンバリング	036A404
講義名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	モンテスキュー『ペルシャ人の手紙』をよむ		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 南1-204.通年 火曜日 3時限 対面授業		

授業概要

モンテスキュー『ペルシャ人の手紙』を取り上げる。パリに旅行し滞在するペルシャ人の目を通して当時のフランスの世相や制度を諷刺すると同時に、彼があとに残してきた後宮での愛憎劇も並行して描かれるという作品である。

到達目標

作品の背景や、言葉の綾を理解しながら、フランス語のテキストを理解し、分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	作品の冒頭部について
第3回	訳読と分析
第4回	同上
第5回	同上
第6回	同上
第7回	同上
第8回	同上
第9回	同上
第10回	同上
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	訳読と分析
第17回	同上
第18回	同上
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	同上
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	まとめ
第30回	自主研究

授業方法(対面授業の場合)

演習

授業方法(遠隔授業の場合)

Webclassで資料などをやりとりしつつ、Zoomでのリアルタイム。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめテキストを読み、分からない単語などを調べておく。
発表担当者はレジュメを準備する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。受講者の数などによって変更することがある。
この授業は、学部生・院生が履修できるが、大学院生はより高度な学修と成果が求められる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、コメントを付して返却する。

教科書

Lettres Persanes, Montesquieu, Le Livre de poche, 9782253082224

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360300101	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習A		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。また論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献を探す
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える
第10回	引用について学ぶ
第11回	注の作成について学ぶ
第12回	序論及び結論の書き方を学ぶ
第13回	フランス語の要旨の書き方を学ぶ
第14回	総括
第15回	自主研究

授業方法(対面授業の場合)

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこなう。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にWebClassを使用したオンデマンド型授業をおこなう。毎回の授業で教材(講義文書と資料)を配信する。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。Zoomを使用してレポートや論文のテーマについてのアドバイスをおこなうこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布する資料やプリントをよく読んで理解すること。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、複数回のレポート課題及び授業中の応答から総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却する、または授業内で説明を行う。個人的にアドバイスを与えることもある。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修できるのは、主に卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある学生。「論文指導演習B」との重複履修は不可。

その他

メールまたはWebbClassによってWord文書のレポートを提出してもらうので、各自PC環境を整えておくこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360300102	科目ナンバリング	036B405
講義名	論文指導演習B		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 4時限 遠隔授業		

授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。また論文を執筆する上で知っておくべき研究倫理を学ぶ。

到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、卒業論文などを執筆できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献を探す
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える
第10回	引用について学ぶ
第11回	注の作成について学ぶ
第12回	序論及び結論の書き方を学ぶ
第13回	フランス語の要旨の書き方を学ぶ
第14回	総括
第15回	自主研究

授業方法(対面授業の場合)

毎回の授業で授業内容に即したプリントを配布し、具体的な例をあげながら説明をおこなう。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

授業方法(遠隔授業の場合)

基本的にWebClassを使用したオンデマンド型授業をおこなう。毎回の授業で教材(講義文書と資料)を配信する。授業内容に沿ったレポート課題を複数回出し、提出されたレポートをもとに補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。Zoomを使用してレポートや論文のテーマについてのアドバイスをおこなうこともある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配布する資料やプリントをよく読んで理解すること。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	90 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験は実施せず、複数回のレポート課題及び授業中の応答から総合的に判断して評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却する、または授業内で説明を行う。個人的にアドバイスを与えることもある。

教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。
履修できるのは、主に3年次の学生。「論文指導演習A」との重複履修は不可。

その他

メールまたはWebbClassによってWord文書のレポートを提出してもらうので、各自PC環境を整えておくこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360302101	科目ナンバリング	036B406
講義名	文献調査演習		
副題	卒業論文を提出しない学生にも開かれた授業		
英文科目名	Research and Documentation		
担当者名	CARTON, Martine		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 遠隔授業		

授業概要

卒業論文を提出する学生だけでなく、卒業論文として提出せずに3-4年生の研究を論文としてまとめたいと思う学生も歓迎します。先生と一緒に研究のテーマの設定、論文か発表の構成法、そのために必要な情報を収集する方法、特にフランス語の文献を探す方法を学びます。最後に、論文または発表のレジュメをつくります。

到達目標

研究のテーマを決めること、インターネットで情報(本や記事やビデオやウェブサイトなど)を収集すること、論文の構想をまとめること、レジュメをつくること、最後にクラスでパワーポイントで発表すること

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 1 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第2回	Sujet 1 : Comment préparer un dossier sur le sujet 1
第3回	Préparer le plan du dossier
第4回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 1
第5回	Rédaction par groupe du dossier sur le sujet 1
第6回	Mise en commun des travaux de groupe
第7回	Fin de la rédaction du dossier.
第8回	Compréhension d'une émission radio en français sur le sujet 1
第9回	Faire une émission radio en français sur le sujet 1 en relation avec le Japon
第10回	Les étudiants présentent leurs émissions radio en français sur le sujet 1 en relation avec le Japon
第11回	Compréhension d'un reportage en français sur le sujet 1
第12回	Imiter le reportage sur le sujet 1 et rédiger un reportage sur le Japon
第13回	Imiter le reportage sur le sujet 1 et rédiger un reportage sur le Japon
第14回	Présentation des reportages par les étudiants
第15回	自主研究
第16回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介 Choix du sujet 2 de recherches : フランスまたはフランス語に関連する研究対象を絞るためのブレインストーミングを行います。何の研究をしたいのか、何に興味があるのかを手掛かりにします。
第17回	Sujet 2 : Comment préparer un dossier sur le sujet 2
第18回	Préparer le plan du dossier
第19回	Rechercher des informations (sites Internet, livres, articles) sur le sujet 2
第20回	Rédaction par groupe du dossier sur le sujet 2
第21回	Mise en commun des travaux de groupe
第22回	Fin de la rédaction du dossier.
第23回	Compréhension d'une émission radio en français sur le sujet 2
第24回	Faire une émission radio en français sur le sujet 2 en relation avec le Japon
第25回	Les étudiants présentent leurs émissions radio en français sur le sujet 2 en relation avec le Japon
第26回	Imiter le reportage sur le sujet 2 et rédiger un reportage sur le Japon
第27回	Imiter le reportage sur le sujet 2 et rédiger un reportage sur le Japon
第28回	Présentation des reportages par les étudiants
第29回	Rédiger un résumé en français des reportages sur le sujet 2
第30回	自主研究

授業方法(対面授業の場合)

Les étudiants travailleront individuellement ou en groupe.

授業方法(遠隔授業の場合)

Les étudiants travailleront individuellement ou en groupe (Système BBS de WebClass)

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Préparation de 20-30 minutes avant chaque cours.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les exercices seront corrigés et rendus aux étudiants, les présentations orales seront corrigées et notées à l'oral.

履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照: <https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360303101	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習A		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西2-305.通年 木曜日 3時限 対面授業*		

授業概要

TCF (Test de Connaissance du Français =フランス語能力試験) 受験対策問題演習などを通して、フランス語能力を高めていくための授業。特に、聴解力を伸ばすことを目指します。今年はシャドーイングと時事的なニュースを2本の大きな柱として授業を進める予定です。
学内で実施するTCF試験を受験することになっています(が、新型コロナの感染拡大状況によってはTCFを実施できない場合もあります)。

到達目標

受講者各自が自らのフランス語レベルを上げること。フランス語を通じてフランス語圏文化の理解を深めていくこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業についておよびTCFについての説明。
第2回	演習問題その1
第3回	演習問題その1解説および演習問題その2
第4回	演習問題その2解説および演習問題その3
第5回	演習問題その3解説および演習問題その4
第6回	演習問題その4解説および演習問題その5
第7回	演習問題その5解説および演習問題その6
第8回	演習問題その6解説および演習問題その7
第9回	演習問題その7解説および演習問題その8
第10回	演習問題その8解説および演習問題その9
第11回	演習問題その9解説および演習問題その10
第12回	演習問題その10解説および演習問題その11
第13回	演習問題その11解説および演習問題その12
第14回	理解度の確認
第15回	まとめ
第16回	演習問題14
第17回	演習問題14解説および演習問題15
第18回	演習問題15解説および演習問題16
第19回	演習問題16解説および演習問題17
第20回	演習問題17解説および演習問題18
第21回	演習問題18解説および演習問題19
第22回	演習問題19解説および演習問題20
第23回	演習問題20解説および演習問題21
第24回	演習問題21解説および演習問題22
第25回	演習問題22解説および演習問題23
第26回	演習問題23解説および演習問題24
第27回	演習問題24解説および演習問題25
第28回	演習問題25解説および演習問題26
第29回	理解度の確認
第30回	総まとめ

授業計画コメント

授業内で使用する/使用した資料はWeb Classに掲載しますので、こまめにチェックすること。

授業方法(対面授業の場合)

各受講者に教科書、CD、DVDおよびインターネット上の音声教材、動画教材に取り組んでもらう演習型講義です。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔授業の場合はzoomによる同時配信型を使用します。音声、画像、動画などを同時に共有しながら演習を進めます。受講者に答えてもらう時には音声およびチャットを使用します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

配られたプリントは予習復習に使用すること。また、毎日出来る限り多くの時間フランス語に触れること(聴くこと、読むこと)がフランス語能力を高めるためには必須なので、理想的には自宅でも毎日、音声・映像教材に取り組んでほしいです。かけ流してもいいので！

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	TCFあるいはオンラインテスト
学年末試験(第2学期)	35 %	オンラインテスト
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への積極的な参加。オンライン試験は、Zoomによる口頭試験を行う可能性もあります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題については、提出後に解説およびコメントをする。

教科書

フランス語シャドーイング入門,藤田裕二 ミドリ・ティオリエ,DHC,2019,9784887245433

教科書コメント

教科書のほか、教師作成プリントも使用。

履修上の注意

履修者数制限あり。
第一回目の授業に出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360303102	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習B		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	一丸 禎子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 遠隔授業		

授業概要

この授業はフランス語を「聞いて」理解することに特化されています。
 一にも、二にも「聞く」ことを中心に展開し、聞いた音を書きとる練習をします。
 そのためには語彙を豊かにする必要があります。
 そこで基礎的なフランス語の知識のおさらいをし、応用としてTV5MONDEやFrance2などから時事的なトピックを選んで、実際に聞き取る練習をします。

到達目標

- ① フランス語を聞いて、内容を理解する。
- ② フランス語を聞いて、簡単な文章は正確に書き取れる。
- ③ 年2回(通常6月、12月)当大学で実施するTCFのうち、最低限1回の受験を前提とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	実力テストに挑戦してみよう！(聞き取りと書き取り)
第2回	Bonjour! Il y a un problème? Au revoir!(聞き取り)
第3回	Bonjour! Il y a un problème? Au revoir!(別冊練習問題の書き取り)
第4回	Tu es français?(聞き取り) / TCF試験の説明1
第5回	Tu es français?(別冊練習問題の書き取り) / TCF試験の説明2
第6回	Vous vous appelez comment?(聞き取り)
第7回	Vous vous appelez comment?(別冊練習問題の書き取り)
第8回	Elle n'a pas de problème.(聞き取り)
第9回	Elle n'a pas de problème.(別冊練習問題の書き取り)
第10回	Il est sportif. Elle est sportive.(聞き取り)
第11回	Il est sportif. Elle est sportive.(別冊練習問題の書き取り)
第12回	Où Hugo va-t-il en vacances?(聞き取り)
第13回	Où Hugo va-t-il en vacances?(別冊練習問題の書き取り)
第14回	応用問題 フランス語でニュースを聞いてみよう
第15回	実力測定
第16回	Ma mère est française et mon père est japonais.(聞き取り)
第17回	Ma mère est française et mon père est japonais.(別冊練習問題の書き取り)
第18回	Qu'est-ce que tu as?(聞き取り) / TCF試験と模擬試験のやり方の説明1
第19回	Qu'est-ce que tu as?(別冊練習問題の書き取り) / TCF試験と模擬テストのやり方の説明2
第20回	Où avez-vous mal?(聞き取り)
第21回	Où avez-vous mal?(別冊練習問題の書き取り)
第22回	Qu'est-ce que Maxime a fait hier soir?(聞き取り)
第23回	Qu'est-ce que Maxime a fait hier soir?(別冊練習問題の書き取り)
第24回	Avant, il y avait...(聞き取り)
第25回	Avant, il y avait...(別冊練習問題の書き取り)
第26回	Et toi, du couscous, tu en as déjà mangé?(聞き取り)
第27回	Et toi, du couscous, tu en as déjà mangé?(別冊練習問題の書き取り)
第28回	応用問題 雑音のある録音を聴く
第29回	応用問題 読み上げられるテキストの聞き取り・書き取り
第30回	実力測定

授業計画コメント

授業で扱う文法事項は1～2年生で習う基礎的な文法です。これはすでにきちんと身につけている必要があります。教科書を見て不明のところは自分で調べ、おさらいをしてあると言う前提で授業を進めます。それでも解決のつかなかった問題は教室で質問し、みんなで考えましょう。こちらから説明を求めることもあります。

授業方法(対面授業の場合)

教室では対面で、ディクテ、語彙の小テスト、インターネットで配信されている時事的トピックを一緒に視聴し、その内容について聞き取り、質問に答えます。

授業方法(遠隔授業の場合)

遠隔ではzoomを使用した同時配信授業を行います。内容は教室対面の場合と同じで、ディクテ、語彙の小テスト、インターネット配信されている時事的トピックを一緒に視聴し(zoomの画面共有)、その内容について聞き取り、質問に答えます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の前に教科書を読み、音源を聞き、ディクテに対応できるように自分で書取りの練習をしておくこと(教室でぶっつけ本番にならないように)。授業の後には、聞き取れなかった、あるいは書き取れなかった語彙を抜き出し、正確に暗記すること。授業で扱った時事的トピックは、授業後にさらに繰り返し聞いて、耳で理解できるようにすること。
以上の他にネット配信されているFrance2などのニュースを聞く習慣をつけておきましょう。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	模擬試験の結果をWebClassで提出
学年末試験(第2学期)	45 %	模擬試験の結果をWebClassで提出
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	15 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

TCFを受験することが目標なので、TCFの結果を重視します。

学期末試験はインターネット上の模擬試験を利用します。

上記と平常点(授業中に聞き取れているか、理解できているかのチェック)を合わせて総合的に評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

基本的にWebClassを利用します。

教科書

エカート！ 聞いておぼえるフランス語, 井上櫻子他, 朝日出版社, 初, 2020, 978-4-255-35304-3

参考文献

フランス語コミュニケーションライブ, 一丸禎子, レポラール・パトリック, 三修社, 初, 2011, 978-4-384-05666-2

参考文献コメント

参考文献にあげている『中級からのフランス語コミュニケーションライブ』はフランスでホームステイする女の子を主人公に展開しています。ヴァーチャルでホームステイを体験できると同時に、フランスの日常生活と自然なフランス語表現について紹介しています。どこから開いても読みやすい作りになっているので、ぜひ参考にしてください。

履修上の注意

履修者数制限あり。

第一回目の授業に出席のこと。

その他

基本的にはWebClassを通じて、いつでも連絡が取れます。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U360303103	科目ナンバリング	036B104
講義名	フランス語実習C		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西2-305.通年 木曜日 3時限 対面授業*		

授業概要

フランス語の1)聞き取り、2)発音、3)文法復習など総合的にのばしていくために、様々な角度から進めていきます。特に聞き取り、発音に力を入れていきます。合わせてTCF受験のための傾向と対策も行う予定です。

到達目標

特に聞き取り、発音、会話に重点をおき、簡単な会話、長文の内容が理解できる。年1度のTCF受験を義務とします。(本校では年2回実施しています)

授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	ガイダンス 授業方法の説明 TCFについて
第2回	聞き取り、発音練習、文法問題 毎回この三つのどれかに焦点を合わせて行きます
第3回	聞き取り、発音練習、文法問題
第4回	聞き取り、発音練習、文法問題
第5回	聞き取り、発音練習、文法問題
第6回	聞き取り、発音練習、文法問題
第7回	聞き取り、発音練習、文法問題
第8回	聞き取り、発音練習、文法問題
第9回	聞き取り、発音練習、文法問題
第10回	聞き取り、発音練習、文法問題
第11回	聞き取り、発音練習、文法問題
第12回	聞き取り、発音練習、文法問題
第13回	聞き取り、発音練習、文法問題
第14回	聞き取り、発音練習、文法問題
第15回	理解度の確認
第16回	聞き取り、発音練習、文法問題
第17回	聞き取り、発音練習、文法問題
第18回	聞き取り、発音練習、文法問題
第19回	聞き取り、発音練習、文法問題
第20回	聞き取り、発音練習、文法問題
第21回	聞き取り、発音練習、文法問題
第22回	聞き取り、発音練習、文法問題
第23回	聞き取り、発音練習、文法問題
第24回	聞き取り、発音練習、文法問題
第25回	聞き取り、発音練習、文法問題
第26回	聞き取り、発音練習、文法問題
第27回	聞き取り、発音練習、文法問題
第28回	聞き取り、発音練習、文法問題
第29回	聞き取り、発音練習、文法問題
第30回	理解度の確認

授業計画コメント

上記の内容は目安であり、学生の理解度によって変わることがあります。さらに単語、文章を暗記しまとめて小テストを細かくやる予定です。その場合はあらかじめ告知し、評価配分に組み込みます。毎回のディクテも評価に入ります。

授業方法(対面授業の場合)

フランスTV5の動画ニュースを観て、内容の把握を目指すとともに語彙、表現などをリスト化して語彙を増やして行きます。合わせてシャドーイング、TCFの問題などに挑戦します。

授業方法(遠隔授業の場合)

フランスTV5の動画ニュースを観て、内容の把握を目指すとともに語彙、表現などをリスト化して語彙を増やして行きます。合わせてシャドーイング、TCFの問題に挑戦します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

学習した語彙や表現を復習してください。課題が出る場合もあります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	音読の提出などを含みます
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

評価配分はあくまでも参考程度であり総合的に評価します。ディクテ、音読などの課題提出も評価に含みます。TCFの受験を義務とします。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験は前期、後期を予定しています。対面、遠隔授業ともに、授業で答え合わせをして次につなげます。

教科書コメント

教科書は1回目の授業で指示します。その他プリントを配布します。遠隔の場合はwebclassにアップします。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

右記URLを参照：<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>